イスラーム

アキーダとイバーダ

Islam (Beliefs and Pillars)

JAPAN 2201012

E COOPERATIVE OFFICE FOR CALL & GUIDANCE AT- SULAY, RIYADH
).BOX 1419 ZIP CODE 11431, TEL.NO (01) 2410615 -FAX (01) 2414488-232
E.mail : sulay5@hotmail.com

目次

はじめに

イスラームとは

『本当にアッラーの御許の教えはイスラーム（主の意思に服従し、帰依すること）である。･･･』イムラーン家章（第3章）19節

イスラームとはアラビア語で平和、従順、服従などの意味を持ちますが、一般的には「アッラーのみへの帰依」を表し、全人類のためにアッラーからもたらされた教えを指します。それは最初の預言者アーダム（彼の上に祝福と平安あれ）から最後の預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）までの、全ての預言者を通してもたらされた教えです。かれらの呼びかけはどれも唯一神アッラーへの帰依と服従でした。そしてアッラーは、預言者たちの封印としてムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）を選ばれ、彼に啓示を下し、終末の日まで有効な全人類のための教えイスラームを完成されたのです。

『･･･今日われはあなたがたのために、あなたがたの宗教を完成し、またあなたがたに対するわれの恩恵を全うし、あなたがたのための教えとして、イスラームを選んだのである。･･･』食卓章（第5章）3節

一方、ムスリムとは自分を全宇宙の創造者アッラーの法にゆだね、アッラーだけに帰依し、服従する人という意味です。

イスラームは信仰と日常生活を切り離して考えることはしません。イスラームは、支配者であり立法者であるアッラーに帰依服従する人間の、個人として、また社会の一員としての行動規範でもあります。それは国家や民族、人種や肌の色、職業や貧富の差、性差などに関係なく、終末の日まで通用する指針です。イスラームは生き方であると言えます。

『宗教には強制があってはならない。まさに正しい道は迷誤から明らかに（分別）されている。それで邪神を退けてアッラーを信仰する者は、決して壊れることのない、堅固な取っ手を握った者である。アッラーは全聴にして全知であられる。』 雌牛章（第2章）256節

このように、アッラーは信仰の強制を禁じておられます。ですから誰でも信仰を強制されることはありませんし、強制することも出来ません。自らの意志でこれを真理であると認める人は誰でもムスリムになれます。

ムスリムになるためには、次のカリマ・シャハーダ、つまり信仰告白文によってシャハーダ（証言）をします。

アシュハドゥ　アンラー　イラーハ　イッラッラー
私はアッラー以外に崇拝の対象がないことを証言します。
ワ　アシュハドゥ　アンナ　ムハンマダン　ラスールッラー
そして私はムハンマドがアッラーの使徒であることを証言します。

シャハーダはイスラームの五つの柱のうちの一つ目です。五つの柱とは、ムスリムがアッラーによって定められた条件と方法で行なうことが義務とされているもので、以下の通りです。

シャハーダ（証言）
サラート（礼拝）
ザカート（喜捨）
ハッジ（巡礼）
サウム（斎戒／断食）

また、五つの柱と並んでイーマーンの柱とされるものがあります。イーマーンの柱とは、アッラーによって与えられた知識に基づき、ムスリムが確信をもって信じることが義務とされているもので、以下の通りです。

アッラー（唯一神）

マラーイカ（諸天使）

クトゥブ（諸啓典）

ルスル（使徒たち）

アルヤウム・ル・アーヒル（終末の日）

カダル（定命）

第1部　アキーダ（信仰箇条）

イーマーンとは

アブー・フライラ[1]によると、アッラーの使徒はこう言われました。
「イーマーンは70以上もしくは60以上の種類があります。その最善なるものはアッラーの他にイラー（崇拝の対象）はないと証言することであり、最も小さなイーマーンとは道路から邪魔になるものを片付ける行為です。謙譲もイーマーンの1つです。」（ブハーリー、ムスリムの伝えるハディース）
またある日、天使ジブリールが男性の格好をして預言者（彼の上に祝福と平安あれ）の前に現れ、イスラームやイーマーンなどについて尋ねました。ウマル[2]によると、イーマーンについて尋ねられた預言者（彼の上に祝福と平安あれ）は次のように答えました。
「アッラー、その天使たち、諸啓典、使徒たち、終末の日について信じ、善悪に対するカダルを信じることです。」（ムスリムの伝えるハディース）

これら二つのハディースは、次のクルアーンのアーヤ（節）によって裏付けられます。
『正しく仕えるということは、あなたがたの顔を東または西に向けることではない。つまり正しく仕えるとは、アッラーと最後の（審判の）日、天使たち、諸啓典と預言者たちを信じ・・・』雌牛章（第2章）177節

『使徒は主から下されたものを信じる、信者たちもまた同じである。（かれらは）皆、アッラーと天使たち、諸啓典と使徒たちを信じる。私たちは、使徒たちの

---

[1] 預言者（彼の上に祝福と平安あれ）の教友の名
[2] 預言者（彼の上に祝福と平安あれ）の教友で2代目カリフ

誰にも差別をつけない（と言う）。』 雌牛章（第２章）285節

一方、カダルに関しては次のように言われています。
『本当にわれは凡ての事物を、きちんと計って（カダルに合わせて）創造した。』 月章（第54章）49節

１、アッラー（唯一神）

『・・・それで邪神を退けてアッラーを信仰する者は、決して壊れることのない、堅固な取っ手を握った者である。・・・』 雌牛章（第２章）256節

「『アッラー以外に崇拝の対象はない』との真理を十分知って死を迎える者は、天国に入る。」（ムスリムの伝えるハディース）

アッラーとはアラビア語で「唯一神」を意味します。ですから「アッラーの神」という言い方は間違いです。アッラーとは人間を含むこの世のあらゆるものの創造者であり、あらゆる力の源泉であり、世界の生きとし生けるもの全てを養っている養護者です。人間が生まれてきたことも、考えたり話したり食べたりして生きていることも、すべて慈悲深い支配者アッラーの力によるものです。大自然が美しいことも、この世界が一定の法則によって動いていることも、すべてアッラーがこの世界をデザインし秩序付けているからなのです。

アッラーは唯一の御方です。この世界が一貫した秩序に基づいて動いているのは、この世界をデザインし創造した存在が唯一だからです。ただひとつである、ということは、単に一であるということだけではなく、全能であり、至高の存在であるということです。アッラーに並び立つものや、同じ程度の力を持つものはありません。

また秩序正しく動いている世界を司るアッラーには、欠点や弱点はありません。休養、食事、睡眠なども一切必要としません。

そしてアッラーには生みの親や妻や子供はいません。アッラーは決して死なないので、子孫を残す必要はありません。アッラーは時間も空間も超越しており、アッラーに似たものはありません。

アッラーは目に見えないことも、人間の心に隠していることも全てご存じです。そこで人間は祈るとき、直接アッラーに呼びかければよいのであって、聖職者や聖者や偶像を仲介する必要はありません。

『アッラー、かれの外に神はなく、永生に自存される御方。仮眠も熟睡も、かれをとらえることは出来ない。天にあり地にある凡てのものは、かれの所有である。かれの許しなくして、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか。かれは（人びとの）以前のことも以後のことをも知っておられる。かれの御意に適ったことの外、かれらはかれの御知識に就いて、何も会得するところはないのである。かれの玉座は、凡ての天と地を覆って広がり、この2つを守って疲れも覚えられない。かれは至高にして至大であられる。』雌牛章（第2章）255節

アッラーの被造物である私たち人間が、私たちの創造主であり養護者であるアッラーに感謝しなかったり、アッラーをさしおいて他の何の力もないものに祈ったりすることは、アッラーに対して非常に恩知らずなことです。「アッラーのほかに崇拝の対象はない」とは、架空の偽の神や偶像をすべて否定して、ただ真実の神アッラーのみを信じ、アッラーのみに従うという意味なのです。

・アッラーの存在を信じる

ムスリムは全宇宙を創造したアッラーの存在を信じます。天と地とそこにあ

る全てのものはアッラーの創造物であり、アッラーの支配下にあります。森羅万象はアッラーが存在することの証です。

『本当に天と地の創造、昼夜の交替、人を益するものを運んで海原をゆく船の中に、またアッラーが天から降らせて死んだ大地を甦らせ、生きとし生けるものを地上に広く散らばせる雨の中に、また風向きの変換、果ては天地の間にあって奉仕する雲の中に、理解ある者への（アッラーの）印がある。』 雌牛章（第2章）164節

また、私たちのドゥアー（祈り）が聞き届けられるのも、アッラーが存在することの証の1つです。

『われのしもべたちが、われに就いてあなたに問う時、（言え）われは本当に（しもべたちの）近くにいる。かれがわれに祈る時はその嘆願の祈りに答える。』 雌牛章（第2章）186節

・アッラーが唯一のラッブ（主）であることを信じる

ラッブとは創造者であり、所有者であり、支配者であることを意味します。つまりアッラー以外に創造者も所有者もおらず、アッラー以外からの命令はないと言うことです。

『（かれは）天と地、またその間にある凡ての有の主であられる。だからかれに仕え、かれへの奉仕のために耐え忍びなさい。あなたはかれと肩を並べ呼ぶものを（外に）知っているのか。」』 マルヤム章（第19章）65節

『本当にあなたがたのラッブ（主）はアッラーであられる。かれは6日で天と地を創り、それから玉座に座しておられる。かれは昼の上に夜を覆わせ、夜に昼を慌ただしく相継がしめなされ、また太陽、月、群星を命に服させられる。ああ、かれこそは創造し統御される御方ではないか。万有の主アッラーに祝福

あれ。』高壁章（第7章）54節

『かれは夜を昼に没入させ、また昼を夜に没入させ、（昼夜の交替）、太陽と月を従えられ、それぞれ周期をもって定められた期間（復活の日）まで（その軌道を）運行さしめる。このようなことが（出来るのは）あなたがたの主、アッラーであられ、大権はかれに属する。』創造者章（第35章）13節

・アッラーが唯一のイラー（崇拝対象）であることを信じる

アッラー以外に崇拝の対象はなく、アッラーには協力者も同位に並ぶものもないことを信じます。そして、イバーダ（信仰行為）はただアッラーだけに向けられるものであり、いかなる形であっても被造物に向けられるべきではありません。預言者たちや信仰深い人、マラーイカ（天使）やジン、自然なども、これらは全てアッラーの被造物であり、アッラーの許しなくしては何の力も持っていないのです。ですから、糧や健康、助けなどを求める対象はアッラーだけであり、恐れや期待を抱く対象も、依存する対象も、犠牲を払う対象もアッラーだけなのです。

『あなた方の神は唯一の神（アッラー）である。かれの他に神はなく、慈悲あまねく慈愛深き御方である。』雌牛章（第2章）163節

『（祈って）　言ってやるがいい。「わたしの礼拝と奉仕、わたしの生と死は、万有の主、アッラーのためである。」家畜章（第6章）162節

・アッラーの美名と属性を信じる

クルアーンと真正なハディースの中で、アッラー御自身とアッラーの使徒（彼の上に祝福と平安あれ）によって語られたアッラーの美名と属性を信じます。

『アッラー、かれの外に神はないのである。最も美しい御名はかれに属する。』

ター・ハー章（第20章）8節

『かれこそは、アッラーであられる。かれの外に神はないのである。かれはガイブ（幽玄界）とシャハーダ（現象界）を知っておられ、慈悲あまねく慈愛深き御方であられる。かれこそは、アッラーであられる。かれの外に神はないのである。至高の王者、神聖にして平安の源であり、信仰を管理し、安全を守護なされ、偉力ならびなく全能で、限りなく尊い方であられる。アッラーに讃えあれ。（かれは）人が配するものの上に（高くおられる）。かれこそは、アッラーであられる。造物の主、造化の主、形態を授ける（主であり）、最も美しい御名はかれの有である。天地の凡てのものは、かれを讃える。本当にかれは偉力ならびなく英明であられる。』集合章（第59章）22－24節

２、マラーイカ（諸天使）

『主を畏れる者たちとは、ガイブ（幽玄界）を信じ・・・』雌牛章（第2章）3節

アッラーの様々な創造物には、ガイブ（幽玄界）のものとシャハーダ（現象界）のものがあります。シャハーダの世界は私たちの五感によって知ることができますが、ガイブの世界についてはアッラーが使徒を通して下された情報しか人間は知ることはできません。これらについて、人間は多くのことを知らされてはいません。

ガイブの被造物のひとつが天使であり、ムスリムはその存在を信じます。天使は常にアッラーを讃美し、アッラーの命令によって様々な任務についています。天使はアッラーの命令に忠実であり、間違えたり怠けたりすることはなく、アッラーに背くこともありません。

『･･･いや、（かれら天使は）栄誉あるしもべである。かれらは、かれ（アッラー）より先に告げることもなく、またかれの命令に基づいて行動するだけである。』預言者章（第21章）26－27節

『天と地の凡てのものは、かれの有である。またその側近にいる者（天使）は、かれに仕えて高慢でもなく、疲れも知らない。かれらは毎日毎晩にかれを讃え、休むことを知らない。』預言者章（第21章）19－20節

天使の任務にはさまざまなものがあります。ジブリール（ガブリエル）はアッラーからの啓示を運ぶ任務についており、ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）に啓示を伝えたのもジブリールでした。ミーカーイール（ミカエル）は自然と人間の糧を司る任務に、イズラーイール（アズラエル）はすべての被造物の魂を抜く任務についています。イスラーフィール（イスラフィル）は審判の日の到来を知らせるラッパを吹く任務についています。

また、全ての人間には2人の天使がついており、人間の所業を全て記録しています。

『見よ、右側にまた左側に坐って、2人の（守護の天使の）監視者が監視する。かれがまだ一言も言わないのに、かれの傍の看守は（記録の）準備を整えている。』カーフ章（第50章）17－18節

その他にも多くの天使が、アッラーに命じられたそれぞれの任務についています。

3、クトゥブ（諸啓典）

アッラーは人間を正しい道に導くために、それぞれの時代と人々の必要に応

じて多くの使徒を遣わし、啓典を下されました。しかし時の経過とともにそれらは人々によって改ざんされ、失われていきました。そこでこれらの完成版として、終末の日まで全ての人間に有効なクルアーンを、アッラーはムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）を通して人類に授けました。ムスリムはクルアーンとそれ以前の諸啓典を信じます。しかし現在ある旧約・新約聖書は人間の手が加えられており、そのオリジナル性が保たれているとは認めません。クルアーン以前の啓典のうち、私たちに知らされているものには次のようなものがあります。

・タウラート

タウラートはヘブライ語で律法と言う意味です。アッラーは預言者ムーサー（彼の上に祝福と平安あれ）を通してタウラートを下されました。タウラートの主な内容はイスラエルの民に対する十戒でした。

・ザブール

ザブールはアッラーからダーウードを通して授けられた詩篇です。ダーウードはムーサーの授かった律法を引き継ぐように命じられていたので、ザブールには法に関することは含まれていません。

・インジール

インジールはイーサーを通して授けられたアッラーの啓示であり、当時すでに改ざんされていたムーサーの教えを正すためにイスラエルの民に下されました。インジールとは福音書という意味です。インジールの主題は汚れた心身を清めることでした。

その他、イブラーヒームやムーサーに授けられたものもあります。

これら諸啓典の完成版として下されたクルアーンには、諸啓典の教えの中で現在も有効な部分はすべて含まれています。ですからムスリムは現在ある聖書を学ぶ必要はありません。

・クルアーン

西暦610年のラマダーン月、アッラーは天使ジブリールを通してムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）に最初の啓示を下されました。それは次のような御言葉でした。

『読め、「創造なされる御方、あなたの主の御名において。一凝血から、人間を創られた。」読め、「あなたの主は、最高の尊貴であられ、筆によって（書くことを）教えられた御方。人間に未知なることを教えられた御方である。」』 凝血章（第96章）1 - 5節

以降、預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）が亡くなる西暦632年まで、23年の歳月をかけてクルアーンは少しずつ下されました。クルアーンは人類に対する導きと正邪の識別の明証であり、また以前の啓典を確証するものです。それはアラビア語で啓示されたアッラーの御言葉であり、人間の作った書物ではありません。文盲であったムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）にもたらされたクルアーンは、当時のアラブの文学者たちを驚かせる完ぺきで美しい文章でした。

『ラマダーンの月こそは、人類の導きとして、また導きと（正邪の）識別の明証としてクルアーンが下された月である。…』 雌牛章（第2章）185節

『われは真理によって、あなたがたに啓典を下した。それは以前にある啓典を確証し、守るためである。…』 食卓章（第5章）48節

そして最後の啓典であるクルアーンは、終末の日まで、アッラー御自身によって改ざんや紛失から守られています。

『本当にわれこそは、その訓戒を下し、必ずそれを守護するのである。』アル・ヒジュル章（第15章）9節

4、ルスル（使徒たち）

アラビア語でラスール（複数形はルスル）とは遣わされた者、使者という意味であり、一方ナビーとは情報をもたらす者という意味があります。ここでは前者を使徒、後者を預言者と訳します。

イスラームにおいては、この二つの語は「神の啓示によって与えられたメッセージを人々に（預言者ムハンマドの場合は全人類に）伝える人」という意味を持ちます。従って、イスラームで使われている「預言者」という言葉には「予言する」「未来の出来事を予知する」といった意味は含まれていません。また、彼らはアッラーによって選ばれた者たちであり、自ら望んで預言者になったわけでも、修業によって預言者になれたわけでもありません。

アッラーはこの世界と人間を創造したまま、放っておくようなことはしませんでした。アッラーは人間を導くために、それぞれの時代のそれぞれの民族と地域で人々の間から預言者を選び、唯一の創造主に帰依する正しい生き方を教えました。ムスリムは、アッラーによって多くの預言者と使徒が遣わされたことを信じます。

『本当にわれは、各々の民に一人の使徒を遣わして「アッラーに仕え、邪神を避けなさい。」と（命じた）。･･･』蜜蜂章（第16章）36節

『言え、「私たちはアッラーを信じ、私たちに下されたものを信じ、またイブラーヒーム、イスマーイール、イスハーク、ヤアコーブおよび諸支族に下されたものを信じ、またムーサーとイーサーと（その他の）預言者たちに主から授か

ったものを信じます。私たちはかれら（預言者たち）の間に、どんな差別もしません。私たちはただ、かれ（アッラー）に服従、帰依します。」』雌牛章（第2章）136節

そして、これら預言者たちの封緘として遣わされたのがムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）です。ですから、預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）以降は預言者も使徒も現れません。

『ムハンマドは、あなたがた男たちの誰の父親でもない。しかし、アッラーの使徒であり、また預言者たちの封緘である。・・・』部族連合章（第33章）40節

このように多くの人間がアッラーによって預言者または使徒として選ばれており、そのうちの何人かはアッラーによってその名が明らかにされています。ムスリムにとって預言者または使徒であったと信じる義務のある人物は、アッラーによって明らかにされた人物だけです。それ以外の預言者や使徒に関しては、その名前や時代などを知ることは出来ません。

5、アルヤウム・ル・アーヒル（終末の日／審判の日）

ムスリムは終末の日の到来とそれに続くアッラーの審判があることを信じます。人間は誰でも必ず死を迎え、審判の日まで墓の中に留まります。そして天使によって終末の日の到来を告げる最初のラッパが吹かれると、すべての人間は死に絶えます。そして2度目のラッパが吹かれると、すべての人間はアッラーによって再び魂をその身体に吹き込まれ、復活します。

その後、アッラーによって人間は現世での行ないを清算されます。誰でもアッラーを唯一であるとし、アッラーとその使徒に従った者は易しい清算を受けますが、多神崇拝者や不義を行なった者は厳しい清算を受けます。善行と悪行

が秤にかけられ、それに応じて楽園の民は楽園へ、業火の民は業火へと入れられます。

アッラーは終末の日について次のように語っておられます。

『かれらは、アッラーを正しい仕方では尊崇しない。審判の日においては、かれは大地の凡てを一握りにし、その右手に諸天を巻かれよう。かれに讃えあれ。かれは、かれらが配するもののはるか上に高くおられる。ラッパが吹かれると、天にあるものまた地にあるものも、アッラーが御望みになられる者の外は気絶しよう。次にラッパが吹かれると、見よ、かれらは起き上って見まわす。その時大地は主の御光で輝き、（行ないの）記録が置かれ、預言者たちと証人たちが進み出て、公正な判決がかれらの間に宣告され、（少しも）不当な扱いはされない。人びとは、その行ったことに対して、十分に報いられよう。かれは、かれらの行った凡てを最もよく知っておられる。

不信者は集団をなして地獄に駆られ、かれらがそこに到着すると、地獄の諸門は開かれる。そして門番が言う。「あなたがたの間から出た使徒は来なかったのですか。（そして）主からの印をあなたがたのために読誦し、またあなたがたのこの会見の日のことを警告しなかったのですか。」かれらは（答えて）言う。「その通りです。そして不信者に対する懲罰の言葉が、真に証明されました。」（かれらは）「あなたがたは地獄の門を入れ。その中に永遠に住みなさい。」と言われよう。何と哀れなことよ、高慢な者の住まいとは。

またかれらの主を畏れた者は、集団をなして楽園に駆られる。かれらがそこに到着した時、楽園の諸門は開かれる。そしてその門番は、「あなたがたに平安あれ、あなたがたは立派であった。ここにお入りなさい。永遠の住まいです。」と言う。かれらは（感謝して）言う。「アッラーに讃えあれ。かれは私たちへの約束を果たし、私たちに大地を継がせ、この楽園の中では好きな処に住まわせて下さいます。」何と結構なことよ、（善）行に勤しんだ者への報奨は。

あなたは見るであろう、天使たちが八方から玉座を囲んで、主を讃えて唱念す

るのを。人びとの間は公正に裁かれ、「万有の主、アッラーにこそ凡ての称讃あれ。」と（言う言葉が）唱えられる。』集団章（第39章）67－75節

『あなたがたは、アッラーに帰される日のために（かれを）畏れなさい。その時、各人が稼いだ分に対し清算され、誰も不当に扱われることはないであろう。』雌牛章（第2章）281節

『それで秤が（善行のため）重い者たちは、至上の幸福をえる。また秤が軽い者たちは、魂を失い、地獄に永遠に住む。』信者たち章（第 23 章）102－103節

『またあなたは、自分の知識のないことに従ってはならない。本当に聴覚、視覚、また心の働きの凡てが（審判の日において）尋問されるであろう。』夜の旅章（第17章）36節

６、カダル（定命）

ムスリムはカダルを信じます。つまり、私たちにとって善いことも悪いことも、すべてアッラーによって定められたものであるということを信じます。アッラーこそ望まれたことを実行する者であり、アッラーが望まれたこと以外は何ひとつ起こり得ません。なにものもアッラーの御意志から逃れることはできず、この宇宙の中で何ひとつとしてアッラーの定命から逃れられるものはありません。また、アッラーの定められた法則によらずに何ひとつとして動かすことは出来ません。アッラーこそしもべの従順な行為と不義の行為を創られた御方であり、誰一人としてアッラーによって定められた事柄を避けることは出来ず、また誰一人として天啓の書に書かれた事柄から逃れることは出来ません。

アッラーは望まれた者に慈悲によって導きを授け、また望まれた者に英知によって迷いを授けます。

私たちは自らの意志で日々あらゆることを選択し行動していると自覚しています。それらに関して何ものからも強制されていると感じることはありません。また、私たちは自らの意志で行なっていることと、震えや心臓の動きのように自らの意志とは関係なく動いていることを区別しています。しかし私たちの意志も能力も、実はアッラーの御意志と権限の許にあるに過ぎません。なぜならこの宇宙はアッラーの所有であり、何ひとつとしてアッラーの知識と意志の外にあるものはないからです。

『だがアッラーが御望みにならなければ、あなたがたは欲しないであろう。・・・』
人間章（第76章）30節

しかし、一方でアッラーはかれのしもべに命令事項と禁止事項を教え、自分の行為を自分で選択するようにされました。アッラーはクルアーンでこう語っておられます。

『・・・だから誰でも望む者は、主の御許に戻るがいい。』 消息章（第78章）39節

つまり、主の御許に戻ることを望むか望まないかは人間に任されているのです。また、人間の能力に関しては次のように語られています。

『アッラーは誰にも、その能力以上のものを負わせられない。（人びとは）自分の稼いだもので（自分を）益し、その稼いだもので（自分を）損なう。』 雌牛章（第2章）286節

そして、審判の日には私たちは皆、自分の行為について責任を問われます。

『もしアッラーが御好みならば、かれはあなたがたを一つのウンマになされた

であろう。だがかれは、御望みの者を迷うに任せ、また御望みの者を導かれる。あなたがたは、行ったことに就いて、必ず問われるであろう。』蜜蜂章（第 16 章）93 節

ですから、私たちは努力を止めたりアッラーに対する不服従や悪行を「自分はこのように定められていたのだ」と言ってカダルのせいにすることは出来ません。預言者（彼の上に祝福と平安あれ）は言っています。

「あなた方のうち楽園の住人であるか火獄の住人であるか、その住処となる場所が書き留められていない者はない。」そこで民の中の一人の男がこう尋ねました。「アッラーの使徒よ、それなら私たちはカダルに身を任せればいいのではないですか。」彼は答えました。「そんなことはありません。誰でも定められたようにすることが易しいように創られているのですから。」（ブハーリーの伝えるハディース）

このように、アッラーの使徒（彼の上に祝福と平安あれ）はカダルを理由に努力を止めることを禁じています。また、カダルは私たち人間には隠されたものであり、それらは実際に起こってからでしか私たちは知ることが出来ません。一方私たちの意志はそれらが起こる前にあります。つまり私たち人間にとっては、カダルの知識に基づいて行動を意図することは不可能なのです。誰でも自分の知らないことを理由にすることはできませんから、カダルを理由に不義を行なうことはまったく受け入れられないことなのです。

ですから私たち人間は、アッラーのカダルを信じると同時に、正しく生きるための努力を怠ってはならないのです。

第2部　イバーダ（信仰行為）

1　シャハーダ

シャハーダ（証言）とはイスラームの核であり、次の2つのカリマによる信仰の証言です。

アシュハドゥ　アンラー　イラーハ　イッラッラー
ワ　アシュハドゥ　アンナ　ムハンマダン　ラスールッラー
（私はアッラーのほかにイラー（崇拝の対象）はないことを証言します。また、私はムハンマドがアッラーの使徒であることを証言します。）

ムスリムはこのカリマの意味することに確信をもつことが大切です。しかし、これをただむやみに信じ込もうとしたり、理性だけで理解しようとするのは正しくありません。盲信と理性だけによる理解は両極端にありますが、ムスリムはその中道を行き、正しい知識に基づいた信仰を持つことが求められます。ですから、クルアーンとハディース（預言者ムハンマドの言行の伝承）を学び、正しい方法でサラートやサウムなどのイバーダ（信仰行為）を実践することによって、このカリマの真意を深く理解していくことがとても大切なのです。

アッラーは信仰の強制を禁じています。ですからシャハーダはいかなる圧力からも自由な状態で、自らの意志で行なわれなければなりません。

『宗教には強制があってはならない。正に正しい道は迷誤から明らかに（分別）されている。それで邪神を退けてアッラーを信仰する者は、決して壊れることのない、堅固な取っ手を握った者である。・・・』雌牛章（第2章）256節

そして、次のアーヤにあるように、シャハーダは人生の終わる時までそれを堅持しつづけることで、火獄の懲罰からの救いとなります。

『あなたがた信仰する者よ、十分な畏敬の念でアッラーを畏れなさい。あなたがたはムスリムにならずに死んではならない。あなたがたはアッラーの絆に皆でしっかりとすがり、分裂してはならない。そしてあなたがたに対するアッラーの恩恵を心に銘じなさい。初めあなたがたが（互いに）敵であった時かれはあなたがたの心を（愛情で）結び付け、その御恵みによりあなたがたは兄弟となったのである。あなたがたが火獄の穴の辺りにいたのを、かれがそこから救い出されたのである。このようにアッラーは、あなたがたのために印を明示される。きっとあなたがたは正しく導かれるであろう。』イムラーン家章（第3章）102－103節

A　『ラー　イラーハ　イッラッラー』の真意

『ラー　イラーハ　イッラッラー』、このカリマはイスラームの核です。このカリマをより深く理解するために、これを単語ごとに見ていきます。

まず、初めの「ラー」は否定であり、それに続く言葉を否定します。次の「イラーハ」は前の「ラー」によって否定されている言葉で、これは「崇拝されるもの」と言う意味があり、次のような意味を含んでいます。

1、心から愛されるもの

2、怖れられるもの

3、助けを請い求められるもの

4、その命令と禁止に服従されるもの

つまり「イラーハ」とは愛と怖れと望みを持って崇拝・服従される対象であり、「ラー　イラーハ」とは、「イラーはない」つまりこの地上にあるあらゆる

崇拝を完全に否定しているのです。

そして次の「イッラー」という言葉ですが、これは「…以外に」という意味であり、次に来る「ッラー（アッラー)」を除外します。つまりここでは「アッラー以外に」という意味であり、この地上で崇拝・服従されるべき対象は「アッラーだけ」であることを強調しています。

ですから「ラー　イラーハ　イッラッラー」とは、まずあらゆる「イラー」を完全否定し、そして至高偉大なるアッラーだけが真実の「イラー」であるということを述べたカリマなのです。そしてアッラー以外に対する崇拝や心の傾倒は、それがどんな形であれシルク（多神崇拝）とみなされます。

多くの人々が意識的か無意識的かを問わず、このシルク（多神崇拝）に陥っています。例えばエゴイズムという自分自身に対する崇拝は、自分の定めた規則以外に従うことを拒否します。このような人は「自我」を「イラー」とした人と言えます。至高偉大なるアッラーは語っておられます。

『あなたは自分の思惑を神として（思い込む）者を見たのか。あなたはかれらの守護者になるつもりなのか。』 識別章（第25章）43節

一方、ほかの人間の自我も「イラー」になり得ます。例えばフィルアウンは自分自身を「イラー」であるとした権力者でした。彼は全ての人々が自分に服従することを望み、人々にその欲望を強制しました。クルアーンにこうあります。

『フィルアウンは言った。「長老たちよ。わたし以外に、あなたがたに神がある筈がない。そしてハーマーンよ、泥（を焼いた煉瓦）でわたしのために高殿を築け。そしてムーサーの神の許に登って行こう。わたしには、どうもかれは虚言の徒であると思われる。」』 物語章（第28章）38節

フィルアウンのような権力者はいつの時代にもどこにでもいるものです。そ

してそのような権力者や指導者を、アッラー以外のイラーとして服従している人々もたくさんいます。人間が他の人間のしもべとなることはいつの時代にも見られる問題です。ですから預言者たちはみな、唯一神アッラーだけに従うことを説き、特定の人間や集団を「イラー」とするあらゆる形のシルクを排除することに力を注いだのです。

また、人間の自我や欲望のほかに、それ自体は益も害も及ぼすことのできない物質も人々によって「イラー」とされています。彼らはある特定の物質には特別な力が宿っていたり奇跡を起こしたりできると信じており、特定の日時に厳かな儀式を行なったりしています。彼らはそれで偽りのイラーから加護と救いが与えられると考えているのです。アッラーはこう語っておられます。

『かれらは、アッラーの外に邪神を選び何とか助けられようとする。それら（邪神たち）は、かれらを助ける力はなく、むしろかれらの方が邪神を守るため軍備を整えている始末。』 ヤー・スィーン章（第36章）74−75節

「アッラーの他にイラーはない」と証言したムスリムは、これら偽りのイラーから完全に自由であり、至高至大なるアッラーだけに帰依服従するのです。

B　『ムハンマド　ラスールッラー』の真意

ムスリムが証言する二つ目のカリマは『ムハンマド　ラスールッラー』です。これはムハンマド（彼に祝福と平安あれ）がアッラーの使徒である事を信じるという証言であると同時に、アッラーの使徒（彼の上に祝福と平安あれ）の神性を否定しています。

アッラーの存在を証言することは、当時のクライシュ族の人々にとっても特にめずらしいことではありませんでした。彼らは先祖の教えであるアーダムとイブラーヒームの教えからアッラーの存在を知っており、日々の生活の中でも

アッラーという言葉は使われていました。一方、私たちの周りにも創造主の存在を認める人は多くいます。しかし彼らは預言者の存在を信じません。このように、唯一神の存在を認めることよりもその使徒たちの存在を認めることの方が、いつの時代でも多くの人々にとって難しい問題となっているのです。

たとえアッラーの存在を認めたとしても、アッラーによって遣わされた使徒たちの存在も同時に認めるのでなければ、アッラーを正しく信仰したことにはなりません。アッラーは私たちを導くために預言者たちを遣わされたのですから、預言者たちの指導なくしては、創造主に正しく敬虔さを示すことは出来ません。また、明瞭な模範がなければ、迷った人生を正すことはできないでしょう。アッラーはアッラーの唯一性を証言するすべての人のために、ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）という人間をその模範として遣わされました。そして、アッラーの使徒（彼の上に祝福と平安あれ）がサハーバ（教友たち）と共に築いた社会は、完成されたイスラーム社会のモデルとなっています。アッラーは語っておられます。

『われが使徒を遣わしたのは、唯アッラーの御許しの許に服従、帰依させるためである。・・・』婦人章（第4章）64節

『本当にアッラーの使徒は、アッラーと終末の日を熱望する者、アッラーを多く唱念する者にとって、立派な模範であった。』部族連合章（第33章）21節

『使徒に従う者は、まさにアッラーに従う者である。・・・』婦人章（第4章）80節

「ムハンマドはアッラーの使徒である」と証言したムスリムは、彼によって伝えられた啓示の真実性を認め、全ての命令に服従し、禁じられたことを避け、使徒の行なった方法によってのみイバーダ（信仰行為）を行ないます。

使徒（彼の上に祝福と平安あれ）に対してムスリムは、彼を愛し、尊敬し、

擁護し、彼を愛する者を愛し、彼のスンナ（慣行）を実践し、彼のために多くの祝福を祈り、そして彼のメッセージを守り、伝えていく義務があります。

これらの使徒に対する義務を行なうことによって、ムスリムは正しい道を踏み外すことなく、アッラーの使徒が示した方法で正しくアッラーを崇拝することができるのです。

2　サラート

まえがき

イスラームは全世界の創造者であり唯一の神、アッラーのみを崇拝する宗教です。そして私たちの預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）が、アッラーのみ使いであると信じ、彼の伝えた教えに従うことです。

イスラームには様々なことに関する教えがあります。もちろん一番大切なのは信仰ですが、信仰は心の中や口先だけではなく、実践することが大切です。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）は人類が幸福になり天国へ入るための具体的な方法を示してくれました。ですから、イスラームの教えやきまりの中に、大変だったり難しいように思えることがあったとしても、それは長い目でみればすべて自分のためになることばかりなのです。

アッラーは非常に優しい御方です。人間のできないことは命じられません。ですから、もし精一杯努力をしてもできないようなことであれば、すべてアッラーは許してくださいます。イスラームには「無理」とか「強制」ということはありません。無理ではなく、自分にできるペースで、少しずつ勉強していってください。

サラートというのはイスラームの礼拝です。サラートとは、私たちが毎日食べるもの、着るもの、健康などすべて恵んでくださる偉大な養護者アッラーに対する感謝を表し、私たちムスリムがアッラーへの帰依と服従を確認する行ないです。ですからサラートはすべてのムスリムの義務です。そこで毎日食物を食べるように、毎日サラートをするのです。

イスラームを信仰してからまず始めなければならないのはサラートです。ムスリムは、男も女も、若い人も年寄りも、金持ちも貧乏人も、忙しい人もひま

な人もみな、一日五回のサラートが義務とされています。もちろん、ムスリムになりたての人はすぐには完璧にできないでしょう。それは仕方がありません。でも、少しずつ努力して、全てできるように頑張ってください。

サラートの言葉はアラビア語です。サラートに使う言葉だけはどうしても覚えてもらわなければなりません。最初はとっつきにくいでしょうが、これでサラートを覚えることによって、ムスリムは世界中どこに行っても同じ言葉、同じスタイルで他の国のムスリム兄弟たちと一緒にサラートができるのです。

アッラーがみなさんを助けてくださいますように。

まず自宅で

A　各サラートの呼び名と時刻

一日五回のサラートの名前は、次の通りです。

1、サラートゥ・ル・ファジュル（暁）الفجر：地平線にぽっと曙光がさしてから、太陽が頭を出す前までの間に行ないます。

2、サラートゥッ・ズフル（正午過ぎ）الظهر：太陽が南中し、子午線を完全に通過した後から、アスルの始まりの時間までの間に行ないます。

3、サラートゥ・ル・アスル（午後遅め）العصر：垂直に立てた棒の影が、正午時の影の長さプラス棒の長さにのびた時刻から、日没までの間に行ないます。

4、サラートゥ・ル・マグリブ（日没直後）المغرب：日没から、イシャーの始まる時間までの間に行ないます。

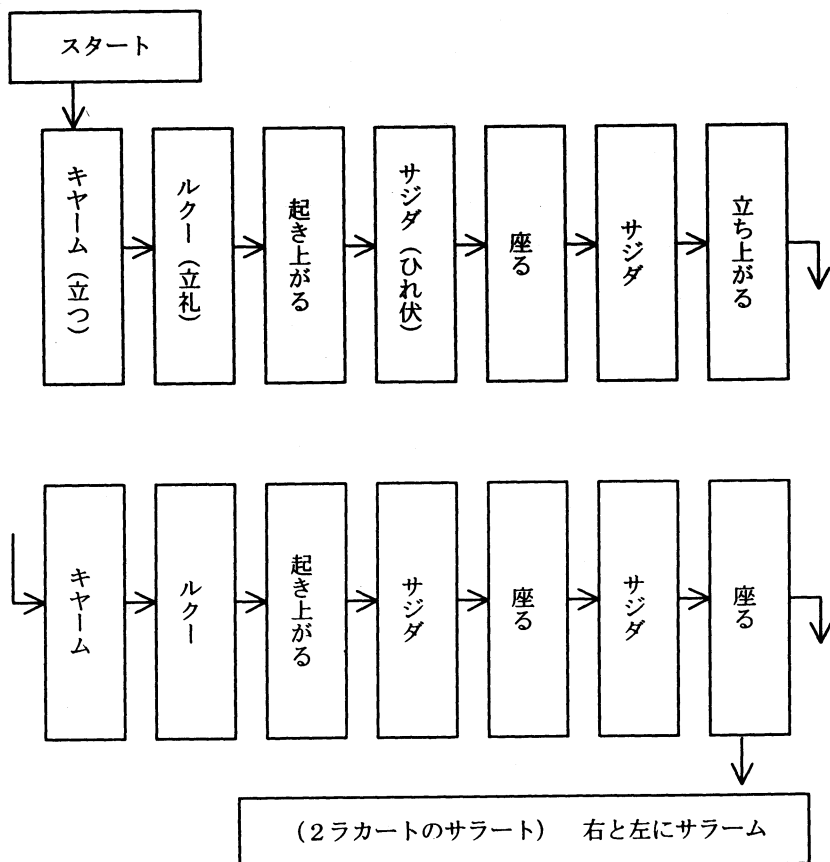
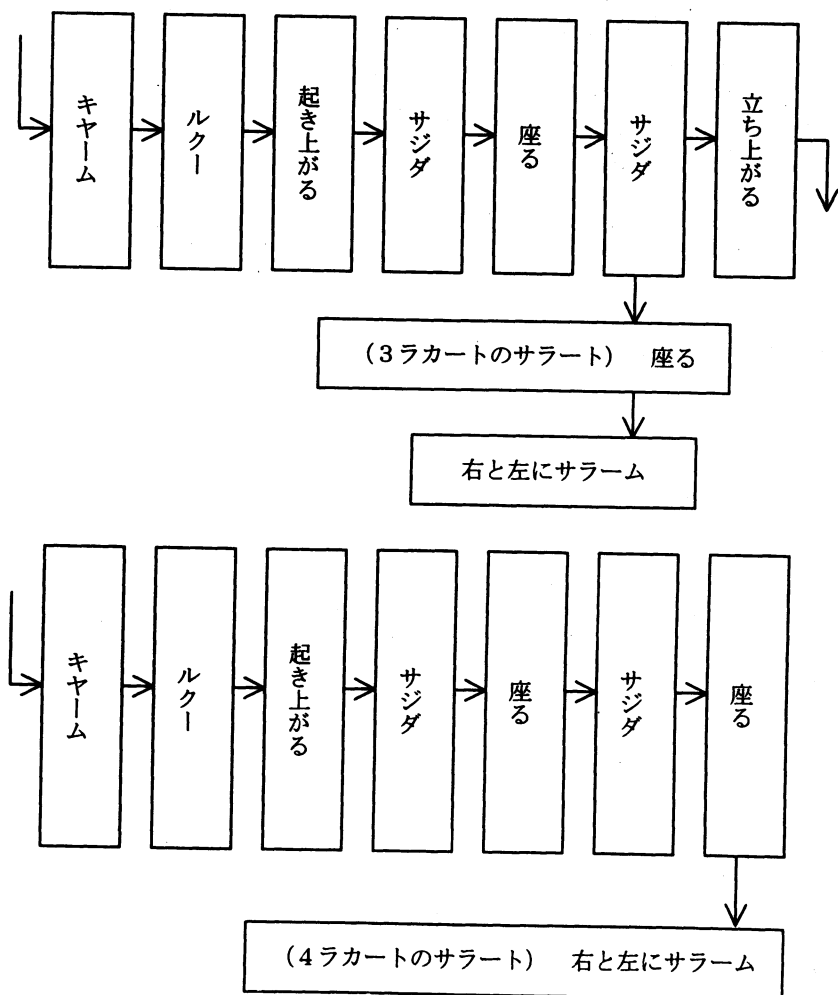
5、サラートゥ・ル・イシャー（夜）العشاء：夜の闇が完全に空を覆ってから、翌朝のファジュルの始まる時間までの間に行ないます。

	ファルド前のスンナ	ファルド	ファルド後のスンナ	ウィトル
1、ファジュル	2	2	—	
2、ズフル	4	4	2	
3、アスル	（4）	4	—	
4、マグリブ	—	3	2	
5、イシャー	（4）	4	2	3

表の数字はサラートの単位の回数です。ファルドのサラートは、ムスリムがやらなければならない最低限の義務のサラートのことです。ウィトルのサラートは、ファルドのつぎに重要です。スンナのサラートとは、預言者ムハンマド

（彼の上に祝福と平安あれ）がいつも行なわれたサラートのことです。（カッコ）のなかのスンナは、預言者がやったりやらなかったりしたもので、ほかのスンナよりも重要度が低いものです。「-」線は日の出日の入りにかかるおそれがあるので、サラートをやるべきでない時間です。

B　サラート全体の流れ

キヤーム
ルクー
起き上がる
サジダ
座る
サジダ
立ち上がる
（３ラカートのサラート）　座る
右と左にサラーム
キヤーム
ルクー
起き上がる
サジダ
座る
サジダ
座る
（４ラカートのサラート）　右と左にサラーム

C　タハーラ

・イステンジャー

サラートは日常で体を清潔にすることから始まります。糞尿や血、膿は自分自身のものも、また他人や動物のものも不浄であり、それらが衣服や身体に付いたままでサラートをすることはできません。またイスラームでは、酒類も不浄なものとしてみなされており、これらが身体や衣服についたままではサラートはできません。生活の中で気をつけなければならないのはトイレの中です。トイレの中での清めの作法をイステンジャーといいますが、これは重要なことです。

放尿や排便の後、水の容器ないしは水道のホースなどを右手で持ち、局部に水をかけながら左手を使ってよく洗います。その後、水分をとるために再びトイレットペーパーで拭いてもかまいません。服を直す前にもう一度確認し、尿が後から出てきて下着や身体を汚すことのないように気をつけます。もし汚してしまった場合、洗い清めなければなりません。水で洗ってから絞り、それを３回繰り返せば充分です。こうしてトイレをすませた後、手をよく洗います。

・ウドゥー

ウドゥーとは、“清め”のことです。サラートをする前には、自分の身体を清めなくてはなりません。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）は「清潔さは信仰の半分である」とおっしゃっています。しかし、イスラームには単に汚いとか汚れたとかいうことの他に宗教的な意味の汚れがあります。これら目には見えない身体の汚れには二種類あり、サラートの前に清めなくてはいけません。

最初は「大きな汚れ」です。次のようなことがあった場合「大きな汚れ」の状態になります。

ー精液がもれた場合

ー性交した場合

ー生理があった場合

ー女性が子供を産んだ後

「大きな汚れ」がある状態では、サラートをすることも、クルアーンに触れることも、マスジド（礼拝堂）の中に入ることもできません。この場合には、ウドゥーだけでは清めは不十分です。グスル（全身沐浴）を行なわなければなりません。（３９ページ「グスルのやり方」参照）

もうひとつは「小さな汚れ」です。小さな汚れは次の場合におきます。

ー小便をした場合

ー大便をした場合

ーおならをした場合

ー吐いた場合

ー血が流れるほどの量、出血した場合

ー膿が出た場合

ー眠った場合

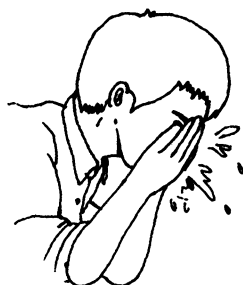
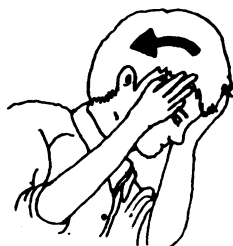
ー失神した場合

これらの場合には、サラートをしたりクルアーンに触れることはできません。また、一回ウドゥーをしても、上記のことがあった場合、ウドゥーは無効になってしまうので、やり直さなければなりません。こういったことがなければ、一回のウドゥーで引き続きサラートできます。（注：くしゃみやあくび、しゃっくりやげっぷではウドゥーは無効になりません）

ウドゥーのやり方

さて、ウドゥーのやり方です。まず、心の中でアッラーに対して「ウドゥーを行ないます」と意志を表します。それから、口の中でそっと「ビスミッラーヒ　ラフマーニ　ラヒーム　بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ」と、言います。(意味：慈悲あまねく、慈悲深きアッラーの名において)

1、そしてきれいな水で右手を手首まで3回洗います。同じようにして、左手を手首まで3回洗います。指輪をしている場合、指輪を着けたまま回して、指輪の下の皮膚が濡れるようにすれば充分です。	2、それから右手で水をすくい、口を3回ゆすぎます。ミスワークとよばれる木の歯ブラシで、歯をよくみがきます。ミスワークがなければ、右手の人差し指で歯をこすります。

３、それから右手で水をすくい、鼻を３回ゆすぎます。	４、それから両手で水をすくい、顔を３回洗います。額の生え際から顎の先までと左右の耳のつけ根までの範囲にきちんと水がかかるように洗います。髭のある人は髭の中まで洗います。
５、それから右手を肘まで３回洗います。右手に水をすくい、そのまま腕を傾けて、肘に向かって水を流すようにすると洗いやすいです。同様にして、こんどは左手を肘まで３回洗います。	６、両手を水で濡らし、その濡れた手の平で前から後に向かって頭をなでます。

7、そしてそのまま人差し指で耳の中を、親指で耳のうしろをなでます。最後に、左右の手の甲で、首のうしろをなでます。	8、つぎに、右足をくるぶしまで3回洗います。裏側まできちんと洗いましょう。この時、水をかけるのに右手の助けを借り、左手を使って洗います。同様にして、左足をくるぶしまで3回洗います。

これでウドゥーは終わりです。

・グスル

ウドゥーについて説明したとき、グスルのことに少し触れました。次のようなことがあった場合、宗教的に「見えない大きな汚れ」となり、そのままではサラートをしたり、クルアーンに触れたりすることはできません。

ー精液がもれる

ー性交する

ー生理がある

ー出産する

そこで、それを清めるために入浴をする必要があります。その入浴をグスルといいます。

・グスルのやり方

1、心の中で「グスルをします」と意志表示をします。

2、両手を洗います。

3、陰部など、汚れた部分を洗います。

4、ウドゥーをひととおり行ないます。

5、水を（あるいはお湯を）頭から三回かけます。

6、水を右肩に三回かけます。

7、水を左肩に三回かけます。

8、口と鼻の穴をすすぎます。

9、髪の毛のつけ根から足の指の間まで、全身をまんべんなく洗います。

イスラームでは、川などの大量の水の場合を除き、一度汚れた身体に触れた水は汚水としてみなします。ですから、人が一度入ったお風呂の水でウドゥーをしたり、グスルをすることはできません。そこで、グスルのときはシャワーか、人がまだつかっていない風呂おけの水をすくってかけるのが適当です。お風呂につかる習慣のある人はお風呂の後、シャワーを使ってもう一度さっと全身を洗い、グスルをすれば良いでしょう。

グスルはウドゥーをも兼ねますから、グスルを行なった直後はウドゥーをやり直す必要はありません。ちなみにグスルでは、口と鼻の中を洗うのは要件のひとつですから、必ず行なうようにしてください。

D　アザーン

ムスリムの国へ行くと、遠くから歌のような音が響いてきます。これが“アザーン”です。アザーンはサラートの時刻を皆に報せて、サラートに来るように呼びかけるためのものです。しかし、家で自分ひとりしかいない場合でも行なった方がよいです。ただし、女性はアザーンをしません。

まず、少し高い場所にマッカの方向を向いて立ちます。それから、両手の人差し指を耳の穴へ入れます。そして、ボリュームをあげておごそかに、こう唱えます。音の高低やのばし方には国や人によって独特のスタイルがあり、決まっていません。

アッラーフアクバル　アッラーフアクバル　　اللهُ أَكْبَرُ اللهُ أَكْبَرْ

アッラーフアクバル　アッラーフアクバル　　اللهُ أَكْبَرُ اللهُ أَكْبَرْ

（意味：アッラーは偉大なり、アッラーは偉大なり）

アシュハドゥ　アンラー　イラーハ　イッラッラー　　أَشْهَدُ أَنْ لا إِلَهَ إِلا الله

アシュハドゥ　アンラー　イラーハ　イッラッラー　　أَشْهَدُ أَنْ لا إِلَهَ إِلا الله

（意味：私はアッラーの他に崇拝に値するものがないことを証言する）

アシュハドゥアンナ　ムハンマダンラスールッラー　　أَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّداً رَسُولُ الله

アシュハドゥアンナ　ムハンマダンラスールッラー　　أَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّداً رَسُولُ الله

（意味：私はムハンマドがアッラーの使いであることを証言する）

ハイヤー　アラッサラー　　حَيَّ عَلَى الصَّلاةِ

ハイヤー　アラッサラー　　حَيَّ عَلَى الصَّلاةِ

（意味：サラートに来なさい）　この時、右を向く

ハイヤー　アラルファラーハ　　حَيَّ عَلَى الفَلاحِ

ハイヤー　アラルファラーハ　　　　　حَيَّ عَلَى الفَلاحِ

（意味：成功に来なさい）この時、左を向く

アッラーフアクバル　アッラーフアクバル　　　　　اللهُ أَكْبَرُ اللهُ أَكْبَر

（意味：アッラーは偉大なり、アッラーは偉大なり）

ラー　イラーハ　イッラッラー　　　　　لا إله إلا الله

（意味：アッラーのほかに崇拝に値するものはない）

ファジュル（暁の礼拝）に限り、「ハイヤー　アラルファラーハ」の後に次の言葉を唱えます。

アッサラートゥ　ハイルン　ミナン　ナウム　　　　　الصَّلاةُ خَيْرٌ مِنَ النَّوْمْ

アッサラートゥ　ハイルン　ミナン　ナウム　　　　　الصَّلاةُ خَيْرٌ مِنَ النَّوْمْ

（注：サラートは眠りより良い）

E イカーマ

“イカーマ”とは、マスジドの中の人々全員に「これからサラートが始まります」ということを知らせるためのアナウンスで、サラートの直前に唱えます。イカーマが始まるとムスリムたちはサラートのために立ち上がって整列します。（整列の仕方。６０ページ「イマームとそのうしろ」）

自宅などで自分ひとりしかいない場合でも、イカーマはした方がよいです。唱える言葉はアザーンとほぼ同じですが、「ハイヤー　アラルファラーハ」の後に「カドゥカーマティッサラー、カドゥカーマティッサラー（意味：サラートは、今まさに始まります）(قَدْ قَامَتِ الصَّلاَةُ قَدْ قَامَتِ الصَّلاَةُ)」という言葉が入ります。アザーンよりは小さい声で、でもはっきりと周りに聞こえる声で、早口で伸ばさずに唱えます。

アッラーフアクバル　アッラーフアクバル　×2

アシュハドゥ　アンラー　イラーハ　イッラッラー　×2

アシュハドゥ　アンナ　ムハンマダン　ラスールッラー　×2

ハイヤー　アラッサラー　×2

ハイヤー　アラルファラーハ　×2

カドゥカーマティッサラー　×2

アッラーフアクバル　アッラーフアクバル

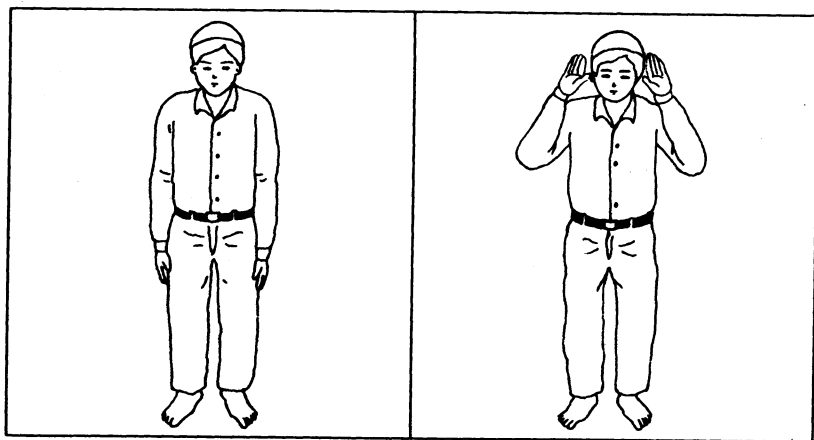
ラー　イラーハ　イッラッラー

（注：ファジュルのサラートでも、イカーマの時は「アッサラートゥ　ハイルン　ミナン　ナウム」は唱えません）

F　サラートのやり方

ウドゥーを済ませた後、清浄な服を着てマッカの方角を向き、清浄な場所に静かに立ちます。男性は最低限へそからひざまで、女性は顔と手首から先を除いた全身を衣服で覆います。マッカは日本からは大体西北西の方角になります。そして心の中で「アッラーをたたえて、なになにのサラートをなんラカートささげます」とニーヤ（意図）します。（３１ページ「サラートの呼び名」参照）

このニーヤは何語でもかまいません。このとき両足は間を少し開け、顔をまっすぐマッカの方角に向け、背筋を伸ばして雑念をはらい、集中します。サラートの途中でやめたり、ものを食べたり、話したりすれば、そのサラートは無効になります。

そして、両手の平を正面に向けて耳の高さまであげ、目は正面を見、声をはっきりと出して、「アッラーフ　アクバル（意味：アッラーは偉大なり）الله أكبر」と言います。そしてただちに両手を自分のへその上あたりで組みます。手の組み方は、左手の指をそろえてのばし、右手をその上に乗せます。この姿勢をキヤームと言います。このとき、視線は自分がサジダした時に頭がつくあたりにとめ、きょろきょろあちこちを見ないようにします。

心の中も、アッラーの事だけを念じるように努力します。

それから、口のなかでつぶやくように小さい声でこう唱えます。（注：まだ言葉をおぼえていない人は、サラートの始めから終わりまで「スブハーナッラー（意味：アッラーは完璧だ）سُبْحَانَ الله」と繰り返します）

スブハーナカッラーフンマ　ワビハムディカ　ワタバーラカスムカ
ワタアーラージャッドゥカ　ワラーイラーハ　ガイルカ [3]

سُبْحَانَكَ اللّهُمَّ وَبِحَمْدِكَ وَتَبَارَكَ اسْمُكَ وَتَعَالَى جَدُّكَ وَلا إِلَهَ غَيْرُكَ

（意味：アッラーよ！あなたは神聖であり、私たちはあなたをたたえます。あなたの名は祝福されています。あなたの偉大さは最高であり、あなたをさしおいて崇拝に値するものはありません）

それから口の中で、こうつぶやきます。

アウーズビッラーヒ　ミナッシャイターニ　ラジーム

أَعُوذُ بِاللهِ مِنَ الشَّيْطَانِ الرَّجِيم

（意味：いまわしい悪魔に対し、アッラーの守護をねがいます）

---

[3] この本では口の中でつぶやくように唱える言葉は斜体で表します。

そして、今度ははっきりと声を出してクルアーンの開端章を唱えますが、第1節目だけは口のなかで読みます。

(注：ズフルとアスルのサラート（３１ページ「サラートの呼び名」参照）では、クルアーンはすべて口の中だけで唱えます)

ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム	بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
アルハムドゥリッラーヒ　ラッビルアーラミーン	الْحَمْدُ لِلّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ
アッラフマーニッラヒーム	الرَّحْمـــنِ الرَّحِيمِ
マーリキ　ヤウミッディーン	مَـــالِكِ يَوْمِ الدِّينِ
イイヤーカナアブドゥ　ワイイヤーカナスタイーン	إِيَّاكَ نَعْبُدُ وإِيَّاكَ نَسْتَعِينُ
イヒディナッスィラータル　ムスタキーム	اهْدِنَا الصِّرَاطَ الْمُسْتَقِيمَ
スィラータッラディーナ　アンアムタ　アライヒム	صِرَاطَ الَّذِينَ أَنعَمتَ عَلَيهِمْ
ガイリル　マグドゥービ　アライヒム	غَيرِ المَغضُوبِ عَلَيهِمْ
ワラッダーッリーン	وَلاَ الضَّالِّينَ
アーミーン	آمين

（開端章　〔アル・ファーティハ〕の意味）

1. 慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

2. 万有の主、アッラーにこそ凡ての称讃あれ、

3. 慈悲あまねく慈愛深き御方、

4. 最後の審きの日の主宰者に。

5. 私たちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う。

6. 私たちを正しい道に導きたまえ、

7. あなたが御恵みを下された人々の道に、あなたの怒りを受けし者、また踏み迷える人々の道ではなく

アーミーン

それからまた口の中でこう唱えます。

ビスミッラーヒ　ラフマーニ　ラヒーム　　　　بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

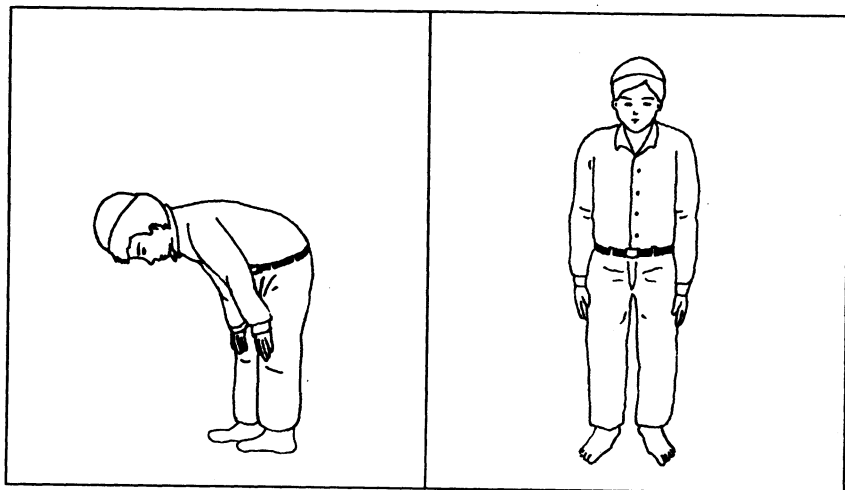
それから、はっきりと声を出して、自分にとって易しいクルアーンの一章、もしくは数節を唱えます。

（注：ズフルとアスルのサラート（「サラートの呼び名」参照）では、クルアーンは口の中だけで唱えます）

クルアーンを唱え終わったら、「アッラーフ　アクバル اللهُ أَكْبَرُ」と唱えながらただちに腰を曲げて、前方にむかって礼をします。このとき、背筋はまっすぐに伸ばし、頭から背中、腰までがちょうどテーブルのように平らになるようにします。足もまっすぐ伸ばし、両手の指を開いて膝をつかみます。視線は両足の親指の間あたりに定めます。この姿勢をルクーと言います。

その姿勢のまま口の中でこうつぶやきます。

スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム　×3　　سُبْحَانَ رَبِّيَ العَظِيم

（意味：尊厳なる主にたたえあれ）

それから、身体を起こしながら、はっきりと声を出してこういいます。

サミアッラーフ　リマン　ハミダ　　سَمِعَ اللهُ لِمَنْ حَمِدَه

（意味：アッラーはたたえる者を聞いておられる）

手を垂らして直立したまま、続いて声を出してこう言います。

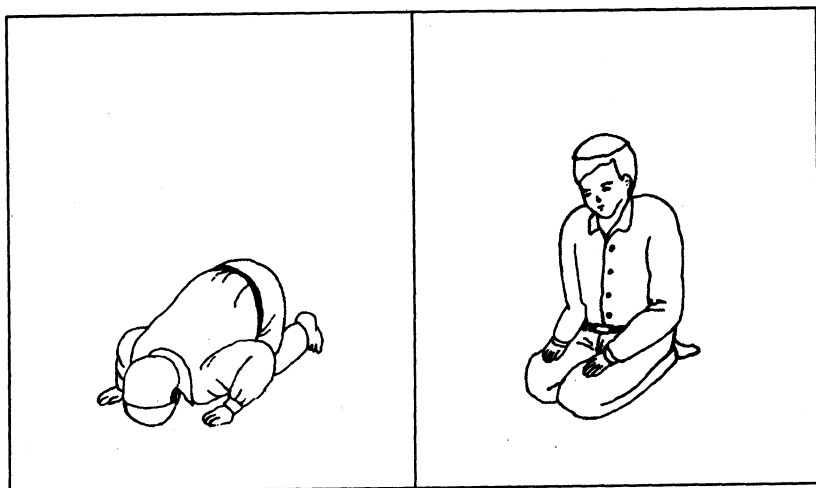
・ラッバナー　ワラカルハムドゥ　　رَبَّنَا وَلَكَ الحَمْد

（意味：私たちの主よ！あなたにこそたたえあれ）

それから、「アッラーフ　アクバル　اللهُ أَكْبَرْ」と声を出しながら、サジダす

る姿勢に移っていきます。サジダはまず膝をつき、両手を置いてから、鼻、額の順序でゆっくりとつけます。この時、視線は自分の鼻に、両手の指はそろえてまっすぐ伸ばし、手の平は耳のすぐわきに置きます。ひじは地面から上げ、おなかの下に仔やぎ（の赤ちゃん）が立って歩けるくらいのすき間をあけます。足はつま先を立て、かかとをあげます。この姿勢をサジダといいます。そして、その姿勢のまま口のなかでこう唱えます。

スブハーナ　ラッビヤル　アアラー　×３　　سُبْحَانَ رَبِّيَ الأَعْلَى

（意味：至高の主にたたえあれ）

それから、声を出して「アッラーフ　アクバル」と唱えながら、体を起こして座ります。そのとき、両手は自然にももの上に置き、背筋はまっすぐに伸ばし、視線は膝のあたりに定めます。

ひと呼吸おいて再び声を出して、「アッラーフアクバル」と唱えながらもう一度サジダし、口の中で「*スブハーナ　ラッビヤル　アアラー*」と３回唱えます。

そして今度は、声を出して、「アッラーフ　アクバル」と唱えながら立ち上がります。これで１ラカート目が終わりです。

さて、キヤームの姿勢にもどりました。ここからは２ラカート目です。先ほどのようにへその上あたりで両手を組んで、背をまっすぐ伸ばし、視線を下げます。そして今度は、最初の言葉はとばして、『開端章』の読誦からサジダまでを１ラカート目と同じように繰り返します。

キヤーム	『開端章』とクルアーンの別の章を読む
ルクーしながら	アッラーフ　アクバル
ルクーで	スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム×３回
起き上がりながら	サミアッラーフ　リマン　ハミダ
起き上がって	ラッバナー　ワラカルハムドゥ
サジダしながら	アッラーフ　アクバル
サジダで	スブハーナ　ラッビヤル　アアラー×３回
座りながら	アッラーフ　アクバル
ひと呼吸またサジダに移りながら	アッラーフ　アクバル
サジダで	スブハーナ　ラッビヤル　アアラー×３回

さて、２ラカート目のサジダから、今度は「アッラーフ　アクバル」と唱えながら立ち上がらずに、そのまま座ります。

それから次のような言葉を口の中で唱えます。

アッタヒーヤートゥ　リッラーヒ　　　　التحيات لله

ワッサラワートゥ　ワッタイイバートゥ	وَالصَّلَوَاتُ وَالطَّيِّبَاتُ
アッサラーム　アライカ　アイユハン　ナビーユ	السَّلَامُ عَلَيْكَ أَيُّهَا النَّبِيُّ
ワラフマトゥッラーヒ　ワバラカートゥフ	وَرَحْمَةُ اللهِ وَبَرَكَاتُهُ
アッサラーム　アライナー　ワアラー	السَّلَامُ عَلَيْنَا وَعَلَى
イバーディッラーヒッサーリヒーン	عِبَادِ اللهِ الصَّالِحِينَ
アシュハドゥ　アンラー　イラーハ　イッラッラーフ	أَشْهَدُ أَنْ لَا إِلَهَ إِلَّا اللهُ
ワアシュハドゥ　アンナ　ムハンマダン	وَأَشْهَدُ أَنْ مُحَمَّداً
アブドゥフ　ワラスールフ	عَبْدُهُ وَرَسُولُهُ

(意味：あらゆるあいさつと、祈りと、良いものは、アッラー、あなたのためにあります。預言者よ、あなたに平安と、アッラーの慈悲、アッラーの恵みがありますように。私たちとアッラーに忠実なすべてのしもべたちに平安あれ。私はアッラーの他に崇拝に値するものがない事を証言します。そして私はムハンマドがアッラーのしもべであり、使徒である事を証言します）

上の言葉の中で、「*アシュハドゥ　アンラー　イラーハ*」と唱える時に、右手の人差し指をまっすぐ前につき出し、アッラーが唯一であることを表し、次の「*イッラッラーフ*」と唱える時には、その指をそのまま下げます。

さて、これでサラートの単位である２ラカートが終わりました。１ラカートはルクー１回とサジダ２回です。サラートは通常、最低２ラカートやって終わります。

そこで、２ラカートで終了する場合は、このまま下へ、３ラカートもしくは４ラカート続ける場合は、54ページへ進んで下さい。

終えるまえに、座ったまま次の言葉を口のなかで唱え、預言者の祝福を祈ります。

アッラーフンマ　サッリ　アラー　ムハンマディン　　اللّهُمَّ صَلِّ عَلَى مُحَمَّدٍ

ワアラー　アーリ　ムハンマディン　　وَعَلَى آلِ مُحَمَّدٍ

カマー　サッライタ　アラー　イブラーヒーマ　　كَمَا صَلَّيْتَ عَلَى إِبْرَاهِيمَ

ワアラー　アーリ　イブラーヒーム　　وَعَلَى آلِ إِبْرَاهِيمَ

インナカ　ハミードゥン　マジード　　إِنَّكَ حَمِيدٌ مَجِيدٌ

（意味：アッラーよ。ムハンマドとその子孫を祝福してください。あなたがイブラーヒームとその子孫を祝福したように。真に、あなたは賞賛すべきお方、最も高貴なお方です）

アッラーフンマ　バーリク　アラー　ムハンマディン　　وَبَارِكْ عَلَى مُحَمَّدٍ

ワアラー　アーリ　ムハンマディン　　وَعَلَى آلِ مُحَمَّدٍ

カマー　バーラクタ　アラー　イブラーヒーマ　　كَمَا بَارَكْتَ عَلَى إِبْرَاهِيمَ

ワアラー　アーリ　イブラーヒーム　　وَعَلَى آلِ إِبْرَاهِيمَ

インナカ　ハミードゥン　マジード　　إِنَّكَ حَمِيدٌ مَجِيدٌ

（意味：アッラーよ。ムハンマドとその子孫にあなたの恵みをお与えください。あなたがイブラーヒームとその子孫に恵みを与えられたように。真にあなたは賞賛すべきお方、最も高貴なお方です）

それからこう祈ります。

ラッバナー　アーティナー　　رَبَّنَا آتِنَا

フィッドゥニヤー　ハサナ　　فِي الدُّنْيَا حَسَنَةً

ワフィルアーヒラティ　ハサナ　　وَفِي الآخِرَةِ حَسَنَةً

ワキナー　アザーバンナール　　وَقِنَا عَذَابَ النَّا

（意味：私たちの主よ。現世でも良いものをお与えになり。来世でも良いものをお与えください。そして炎の罰から私たちをお守りください）

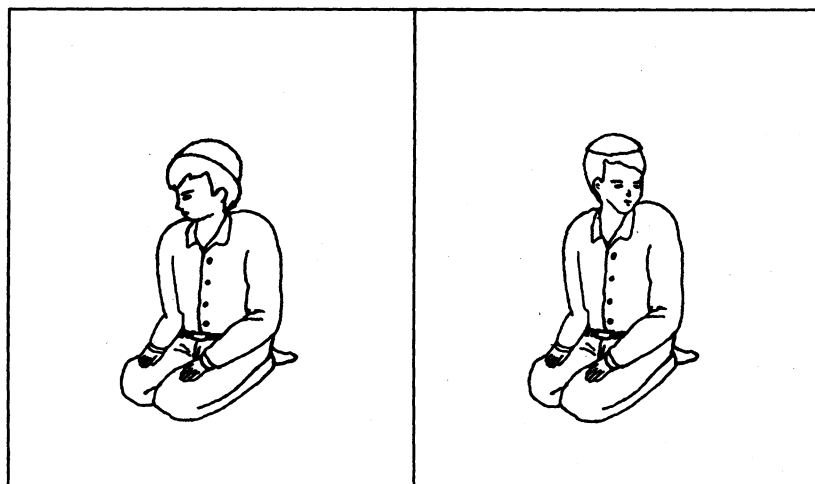
そして、最後に右をむいて声を出し、

アッサラーム　アライクム　ワラフマトゥッラー　　السَّلامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ اللهِ

（意味：あなたたちに平安とアッラーの慈悲がありますように）

と言い、さらに、左をむいて

アッサラーム　アライクム　ワラフマトゥッラー　　السَّلامُ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَةُ الله

と言います。これで、サラートは終わりです。

　サラートの終わったあと、そこで座ったまま、アッラーをくり返し讃えるズィクルをすることが勧められています。これは義務ではありませんが、やればそれだけ報奨があります。声は高くても低くてもかまいません。

スブハーナッラー سُبْحَانَ الله　と３３回となえます。

（意味：アッラーは完全だ）

それから、*アルハムドゥリッラー* الحَمْدُ لله　と３３回となえます。

（意味：アッラーに讃えあれ）

さいごに、*アッラーフアクバル* ﷲ أكبر と３４回となえます。

（意味：アッラーは偉大なり）

手の指を使って数えるのが、預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）の習慣でした。

それから、アッラーへ自分の個人的な願いを自分の言葉でします。アッラーはあらゆる人の言葉を、それが何語であっても、どこにいても聞いておられますから、悪いことでないかぎり、現世のことも来世のことも、自分なりに望むことを願えばよいのです。この祈りのことをドゥアーといいます。

３ラカートと４ラカート

これは51ページからの続きです。２ラカートが終わって、その先を続けるときはここに進みます。言葉と動作は１・２ラカートの時とほとんど同じです。

２ラカート目の終わりに「*ワアシュハドゥ　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ　ワラスールフ*」と唱えおわってから、すぐに「アッラーフ アクバル」と言って立ち上がります。

３ラカート目

手を組んだキヤームの姿勢にもどります。それから、今度は口の中でクルアーンの『開端章』を唱えます。

重要！３・４ラカートでは、『開端章』の後に別の章は唱えません。

そして１、２ラカート目と同じようにルクーとサジダをします。

ルクーしながら　　　アッラーフ アクバル

ルクーで　　　　　　*スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム*×３回

起き上がりながら　　サミアッラーフ　リマン　ハミダ

起き上がって　　ラッバナー　ワラカルハムドゥ

サジダしながら　　アッラーフ アクバル

サジダで　　スブハーナ　ラッビヤル　アアラー×３回

座りながら　　アッラーフ アクバル

ひと呼吸またサジダに移りながら　　アッラーフ アクバル

サジダで　　スブハーナ　ラッビヤル　アアラー×３回

再び声を出してアッラーフアクバルと唱えますが、３ラカートで終わる場合はそのまま座ります。そして４９ページにもどり、「アッタヒーヤートゥ　リッラーヒ…」と「アッラーフンマ…」を読み、サラートを終了します。

もし、４ラカートに進む場合は、そのまま立ち上がります。

４ラカート目

そして、また同じように『開端章』からサジダまで繰り返します。

キヤーム　　『開端章』を読む

ルクーしながら　　アッラーフ　アクバル

ルクーで　　スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム×３回

起き上がりながら　　サミアッラーフ　リマン　ハミダ

起き上がって　　ラッバナー　ワラカルハムドゥ

サジダしながら　　アッラーフ　アクバル

サジダで　　スブハーナ　ラッビヤル　アアラー×３回

座りながら　　アッラーフ　アクバル

ひと呼吸またサジダに移りながら　　アッラーフ　アクバル

サジダで　　スブハーナ　ラッビヤル　アアラー×３回

最後に、再び「アッラーフアクバル」と唱えて座る姿勢になります。そして４９ページへもどり、「*アッタヒーヤートゥ　リッラーヒ…*」と「アッラーフンマ…」を読み、サラートを終えます。

G　スンナとナフルのサラート

いままで説明したのは義務のサラートで、義務のことをアラビア語でファルドと言います。サラートは一日五回のファルドを行なえば一応十分です。けれども、イスラームの考え方としては、できるだけ少なくやって楽をしようというのではなく、良いことならば積極的にやろうという考え方なので、もし難しくなければ、義務でないサラートもやった方がよいです。

預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）の行ないのことをスンナと言います。そこでスンナのサラートとは、預言者（彼の上に祝福と平安あれ）が義務のほかにやっておられたサラートのことを指します。

また、まったく自発的に行なうサラートのことをナフルのサラートといいます。ナフルとは、アラビア語で任意のことです。これはいつでも好きなだけやることができます。（注：ただし、日の出と日没の際に太陽が地平線にかかっている間と、太陽の南中時はサラートをしてはいけない時間になっています。）

ナフルのサラートは基本的に２ラカートずつです。そこで例えばナフルのサラートを４ラカートといえば、２ラカートごとに終了して行ないます。

人々が寝静まった深夜、一人起きあがって行なうサラートには非常に大きな報奨があると言われています。そのようなナフルのサラートのことをタハッジュドといいます。

・スンナとナフルのサラートのやり方

スンナもナフルもやり方はファルドのサラートとほとんど同じです。ただ、少しだけ違うところがあります。

最初はニーヤ（意思表示）です。「スンナ（あるいはナフル）のサラートをします」と意図します。そして、スンナもナフルも全ての言葉を口の中だけで唱えます。それから、いくつかの場合を除いて、スンナもナフルも自分ひとりで行ないます。それに対し、ファルドのサラートは原則として（もちろんできなければかまいませんが）マスジドでほかの人たちと一緒にやるものです。ただし、女性はマスジドへ行く義務はありません。

H　ウィトルのサラート

一日のしめくくりに行なう３ラカートのサラートを「ウィトル」のサラートと言います。これは、義務ほど重要ではありませんが、スンナよりも重要なものです。

ウィトルのサラートはスンナやナフルのサラートのように、言葉はすべて口の中でつぶやくように唱えます。

また、スンナやナフルのサラートのように、それぞれのラカートで『開端章』を唱えた後にもうひとつ別のクルアーンの章を唱えます。

ウィトルのサラートのやり方は次の通りです。

ウィトルのサラートをするという意思表示をします。

普通にスンナやナフルのサラートのようにサラートを進めます。

３ラカート目まで来て、クルアーンの『開端章』ともうひとつ別の章を読み終わった時、ルクーに入る前に両手を耳の高さまで上げて「アッラーフ　アクバル」と言います。

それから元のように前で手を組んでからドゥアークヌートと呼ばれる次の祈りを唱えます。

アッラーフンマ　インナー　ナスタイーヌカ　　اَللّٰهُمَّ إِنَّا نَسْتَعِينُكَ

ワナスタフディーカ　ワナスタグフィルカ	وَنَسْتَهْدِيكَ وَنَسْتَغْفِرُكَ
ワヌッミヌビカ　ワナタワッカル　アライカ	وَنُؤْمِنُ بِكَ وَنَتَوَكَّلُ عَلَيْكَ
ワヌスニー　アライカルハイラクッラ	وَنُثْنِي عَلَيْكَ الْخَيْرَ كُلَّهُ
ナシュクルカ　ワラーナクフルカ	نَشْكُرُكَ وَلَا نَكْفُرُكَ
ワナフラウ　ワナトゥルク　マンヤフジュルカ	وَنَخْلَعُ وَنَتْرُكُ مَنْ يَفْجُرُكَ
アッラーフンマ　イイヤーカ　ナアブドゥ	اللَّهُمَّ إِيَّاكَ نَعْبُدُ
ワラカ　ヌサッリー　ワナスジュドゥ	وَلَكَ نُصَلِّي وَنَسْجُدُ
ワイライカ　ナスアー　ワナフフィドゥ	وَإِلَيْكَ نَسْعَى وَنَحْفِدُ
ナルジューラフマタカ　ワナフシャー	نَرْجُو رَحْمَتَكَ وَنَخْشَى
アザーバカ	عَذَابَكَ
インナ　アザーバカ　アルジッダ	إِنَّ عَذَابَكَ الْجِدَّ
ビルクッファーリ　ムルハク	بِالْكُفَّارِ مُلْحَقٌ

(意味：アッラーよ。私たちは本当にあなたの助けとあなたの導きとあなたの許しを求め、あなたを信じ、あなたに頼ります。あなたを賞讃し、あなたに感

謝し、あなたに背きません。そしてあなたに不服従な者と離れ、つき合いを絶ちます。アッラーよ。私たちはあなたのみを崇め、あなたに対してのみサラートを捧げます。そしてあなたにサジダし、あなたのもとに参ります。そしてあなたの慈悲を願い、あなたの罰を恐れます。まことに、あなたの罰は不信者のすぐそばにせまっています)

この祈りが終わってから、「アッラーフアクバル」と唱えてルクーに入り、あとは他のサラートと同じように終えます。

預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）は、ほとんど毎晩タハッジュドという深夜のサラートを行なっていました。そしてそのしめくくりにウィトルのサラートをしました。そこで、自分が深夜礼拝に起きる自信のある人はウィトルのサラートをしないでとっておきます。しかしその自信のない人は、イシャーの後に済ませてしまった方がいいでしょう。

I　女性がサラートを免除されるとき

女性は次の場合にはサラートをしません。

1、生理の時：ただし、体質的に出血がいつまでも止まらない女性の場合は病気による出血とみなし、生理期間が過ぎたらまだ出血があってもグスルをし、通常どおりサラートを始めます。

2、出産後の出血が続いている期間：これも４０日間を限度とし、期日が過ぎればグスルをし、ふだんの生活を始めます。

これらの免除されたサラートは、やらなかったサラートなどと異なり、後でやり直す必要はありません。

育児や家事で忙しいなどはサラート免除の理由になりません。アッラーが私たちに忍耐を与え、物事を易しくしてくださいますように。

モスクへ行く

A　ジュムア（金曜日）のサラート

金曜日はムスリムたちの祝日です。その日、ムスリムはグスルをし、一番よい服を着て町の大きなマスジドに集まり、ジュムアのサラートをします。導師の説教が行なわれ、その後、皆で一緒にサラートします。ジュムアはズフルと同じ時間に行なわれ、ズフルの代わりになります。

ジュムアは最低４人いないとできません。そこでジュムアに参加できなかった人は、各自でズフルのサラートをおこないます。

下の表はジュムアのラカートの回数です。

ジュムア（金曜礼拝）のラカート数

サラートの前のスンナ	ジュムアのサラート	サラートの後のスンナ
4	2	4そして2

B　ジャマア（集団）のサラート

・イマームとその後ろ

サラートは基本的に集団でおこなうものです。近くにマスジドがあればマスジドで、なくてもなるべく二人以上で集団を作ってやった方が、より多くの報奨があります。集団礼拝は個人の礼拝の２７倍優れていると言われています。

集団のサラートには、先頭に立ってサラートを率いる役目の人がいます。この人のことをイマームといいます。イマームはその集団のなかで一番クルアーンを知っている人、宗教の知識がある人、それから年長者などがなります。

・並び方

二人でサラートするときはイマームの右側にもうひとりが並びます。３人以

上の場合、サジダするだけの距離をとってイマームの後に横一列に並びます。列はまっすぐに、お互いの肩と肩がふれあうぐらいくっついて並びます。

夫婦で一緒にサラートする場合、夫がイマームになり、妻はその後ろに立ちます。

・イマームとそれ以外の人との違い

集団礼拝で、声を出すのはイマームだけです。イマームの声に合わせて、後ろの人々はサラートの動作をします。イマームより先に動いてはいけません。そこでイマームの唱える言葉と、後ろの人の唱える言葉を分けて書いてみました。

イマーム	後ろの人々
一人がイカーマを唱えたら集まってきて並ぶ	
みんなが並んでいるのを確かめる	
*「イマームとして、なになにのサラートをなんラカートささげます」*という意志を心の中で唱えます。	*「イマームの後ろで、なになにのサラートをなんラカートささげます」*という意志を心の中で唱えます。
立ったまま アッラーフアクバル （と声を出す）	*アッラーフアクバル*

スブハーナカッラーフンマ　ワビハムディカ

ワタバーラカスムカ　ワタアーラージャッドゥカ

ワラーイラーハガイルカ

アウーズビッラーヒミナッシャイターニッラジーム

クルアーンの『開端章』を

声に出して読む

ビスミッラーヒラフマーニラヒーム

アルハムドゥリッラーヒ　　　　ただ聞く

ラッビルアーラミーン

〜〜　中略　〜〜

ガイリルマグドゥービアライヒム

ワラッダーーッリーン

アーミーン

クルアーンの別の章を読む

ただ聞く

ルクーへ

アッラーフアクバル

アッラーフアクバル

スブハーナラッビヤルアズィーム

スブハーナラッビヤルアズィーム

スブハーナラッビヤルアズィーム

起き上がる

サミアッラーフリマンハミダ

ラッバナー　ワラカルハムドゥ

サジダへ

アッラーフアクバル

アッラーフアクバル

スブハーナラッビヤルアアラー

スブハーナラッビヤルアアラー

スブハーナラッビヤルアアラー

起き上がって座る

アッラーフアクバル

アッラーフアクバル

二回目のサジダへ

アッラーフアクバル

アッラーフアクバル

スブハーナラッビヤルアアラー

スブハーナラッビヤルアアラー

スブハーナラッビヤルアアラー

立つ（あるいは座る）

アッラーフアクバル

アッラーフアクバル

以降、同様に行なう

〜〜　中略　〜

最後に

アッタヒーヤートゥリッラーヒ　ワッサラワートゥ　ワッタイイバートゥ

アッサラームアライカ　アイユハンナビーユ　ワラフマトゥッラーヒ

ワバラカートゥフ

アッサラームアライナー　ワアラー　イバーディッラーヒ　サーリヒーン　アシュハド　アンラー　イラーハ　イッラッラーフ

ワアシュハド　アンナ　ムハンマダン　アブドフ　ワラスールフ

アッラーフンマ　サッリ　アラー　ムハンマディン　ワアラー　アーリ　ムハンマディン　カマー　サッライタ　アラー　イブラーヒーマ　ワアラー　アーリ　イブラーヒーム　インナカ　ハミードゥン　マジードゥ

アッラーフンマ　バーリク　アラー　ムハンマディン　ワアラー　アーリ　ムハンマディン　カマー　バーラクタ　アラー　イブラーヒーマ　ワアラー　アーリ　イブラーヒーム　インナカ　ハミードゥン　マジードゥ

ラッバナー　アーティナー　フィッドゥンヤー　ハサナ　ワフィル
アーヒラティ　ハサナ　ワキナー　アザーバンナール

右をむき

アッサラームアライクム
ワラフマトッラー

アッサラームアライクム
ワラフマトッラー

左をむき

アッサラームアライクム
ワラフマトッラー

アッサラームアライクム
ワラフマトッラー

この表でお分かりのように、イマームが『開端章』を唱えて「ワラッダーッリーン」と言うと、それに応えるようにして後ろの人々は「アーミーン」とい

います。

それから、ルクーから起き上がる時にイマームが「サミアッラーフ　リマンハミダ」と言うのに対し、起き上がった人々は「*ラッバナー　ワラカルハムドゥ*」と、これも呼びかけに応えるようにして唱えます。

しかし、後ろの人々は最初から最後まで無言で、これらの言葉はすべて口の中でつぶやくようにして唱えるのです。

このように声を出してサラートするのは、基本的にイマームが後の人々の動作に号令をかける必要のあるときです。ですから後に並ぶ人やイマームにはならない女性は声を出さずにサラートします。しかし男性が単独で義務のサラートを行なう場合は、自分がイマームになったとみなしてイマームの唱えるべき言葉と後に並ぶ人の言葉を全て唱えます。

こんなときどうする

A　水がない場合－タヤンムム－

生活の中では、ウドゥーやグスルのための水がどうしても手に入らないことがあります。そういった場合、清潔な砂や自然の石などを用いて清めを行なうことができます。そういう清めのやり方をタヤンムムといいます。

タヤンムムをするにはある種の条件があります。それは他に方法がなく、やむを得ないということです。例えば、

1、身近な所に水が得られない。何キロも離れた所に水があって、容易に持って来られない。

2、水は近くにあるのだが、そこになんらかの危険（例えば、水道の前に危険な野犬がいるなど）があって、そこにどうしても近付くことができない。

3、皮膚病などで、医者に水の使用を禁じられている。

4、山岳地帯などで、水は持っているのだが、それは飲料水として重要なので使うわけにはいかない。

5、風邪をひいて熱がでているが、冷たい水しか手に入らない。もし冷たい水を使えば、確実に病気が悪化する。

6、病気で身動きのできないような状態である。

7、水は売っているものの、こちらの弱みにつけこむような法外な値段である。

8、長距離の列車に乗っており、降りることもできなければ、水を手に入れる事もできない。サラートの時刻は刻々と終わりに近付いている。

これらの場合には、タヤンムムをしてもよいとされています。けれども、ただ単に水のある所まで行くのが面倒臭いとか、冷たいのがいやだとかは理由になりません。もし水がなくてタヤンムムをした後でも、サラートの直前に水が手に入ったような場合、その瞬間にタヤンムムは無効になりますから、ウドゥ

ーをやり直さなければなりません。しかしタヤンムムで行なったサラートが終わった後に水が手に入っても、そのサラートをやり直す必要はありません。

タヤンムムをするためには、清潔な土や砂、石灰、磨いていない石の置物、レンガ、粘土、陶器、あるいは自然の石、清浄な砂、漆喰の壁などを用います。使えるのは土の性質を備える天然自然のもので、熱によって灰にならないものです。例えば鉄や銅、布や灰、ガラスやプラスチック、木や紙などは燃やすと融けたり灰になったりしてしまうので、これらでタヤンムムを行なうことはできません。しかし、これらのものの上に充分な砂ぼこりが乗っていた場合、その砂ぼこりを使ってタヤンムムを行なうことができます。

タヤンムムをするには、まずニーヤ（意思表示）が必要です。サラートのためかクルアーン読唱のためか、何の清めの代わりにタヤンムムをするのかをはっきりさせます。タヤンムムはウドゥーの代わりにもグスルの代わりにもなりますから、それに応じたニーヤが必要なのです。またその有効期限はウドゥーと同じで、ウドゥーを壊す原因となるようなことが起きない限り、１回のタヤンムムで何回でもサラートできます。ただし、クルアーンに触れるために行なったタヤンムムで、サラートを行なうことはできません。

・タヤンムムのやり方

１、まず意思表示をします。例えば心の中で、「ファジュルのサラートをするために、グスルの代わりにタヤンムムをします」と意図します。

２、両手の平で石か砂に触れます。そして余分な砂を払います。

３、両手のひらを自分の顔に向け、顔のウドゥーの時に洗うのと同じ部分にまんべんなく砂ぼこりがつくように１回、顔をなでます。

４、そしてもう一度両手で石または砂に触れ、そして余分な砂ぼこりを払い、今度は左手で、右手をひじまでなでます。

５、次に右手で、左手をひじまでなでます。最後に、両手の指を交差させ、指

と指の間にも砂ぼこりがつくようにして終わりです。あごひげがある人は、あごひげにも指を通します。

タヤンムムでは頭や足は清める必要はありません。ウドゥーで清める顔と腕の部分にまんべんなく砂ぼこりがつけば、それでじゅうぶんです。また石を用いた場合、砂ぼこりがじゅうぶんないことがありますが、それもまったくかまいません。

タヤンムムは、タヤンムムを行なわなければならなかった条件が続く限り有効です。ウドゥーが壊れるのと同じ条件で、タヤンムムも壊れます。

B　サラートをまちがえたとき

サラートの中には、それなくしてはサラートが成り立たない重要なことがあります。それらは次のとおりです。

1、ニーヤ（意図）

2、最初に両手を耳の高さまでかかげ「アッラーフ　アクバル」と唱えること

3、立った姿勢で数秒とどまること

4、クルアーンの開端章を読むこと（注：まだ覚えていない人は構いません）

5、ルクー

6、二回のサジダ

7、最後にしばらく座った姿勢でいること

8、サラーム

9、これらを順序正しく行なうこと

これらのどれかを忘れると、サラートは無効でやり直しです。これら以外のことを忘れたり、順序を間違えたり、抜かしたり、遅れたり、多くやりすぎたりしてしまった場合、やりなおしをせずに訂正することができます。

実際にサラート中、ラカートの回数を忘れてしまった場合を追いながら、この訂正のやり方を見てみましょう。

・ラカートの回数を忘れた

預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）のお言葉にこういった意味のものがあります。「アザーンの声が聞こえると、悪魔は自分の耳に指をつっこんで後ろをむくと放屁をし、アザーンが聞こえない所まで一目散に逃げてゆく。ところがサラートが始まると戻ってきてサラートをしている人々の心に「あれを思い出せ。これを思い出せ」とささやき、それでサラートしている人は自分のサラートの回数を忘れてしまう」

本当に悪魔は人間にとってしつこい敵です。それでは、サラートの途中でラカートの回数を忘れてしまった場合、どうすればよいのでしょう。

さて、例えば私はズフルの４ラカートのサラートをしていました。２ラカート目あたりまでは確かに覚えていたのですが、はっと気がつくと今自分が３ラカート目か４ラカート目かわからなくなっていました。

この時、自分が確実にやった少ない方の３ラカートだろうと仮定し、そのままサラートを続けます。

４ラカート目（もしかしたら５ラカート目かもしれないが）をやります。ラカートの回数が少な過ぎる場合、そのサラートは無効になります。ですから、分からなくなったときは、常に多めにやることです。

座って、「*アッターヒヤートゥリッラーヒ*」を唱えます。

「……*アシュハドゥ　アンラー　イラーハ　イッラッラーフ、ワアシュハドゥ　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ　ワラスールフ*」を唱え終わったところで右をむいて「アッサラームアライクム　ワラフマトッラー」と言います。

そのまま正面をむいて「アッラーフ　アクバル」と唱え、サジダします。

「*スブハーナ　ラッビヤル　アアラー*」と３回唱えます。
そして「アッラーフ　アクバル」と唱えて座ります。
一呼吸おき、ふたたび「アッラーフ　アクバル」と唱えてサジダします。
「*スブハーナ　ラッビヤル　アアラー*」と３回唱えます。
最後に、「アッラーフ　アクバル」と唱えて座ります。
もう一度、「*アッターヒヤートゥ　リッラーヒ*」を唱えます。
そのまま最後まで、普通のサラートのように言葉を唱え、最後は左右のサラームで終わります。

このように、間違いを訂正するためには、最後に「アッサラームアライクムワラフマトッラー」を一つとサジダを二つ余分に付け足せばよいのです。
他の細かい間違いもみんな同じやり方で訂正できます。どんなサラートにも同じやり方で使えます。また、同じサラートの中で２回以上間違えても１回の訂正で済みます。
この訂正のためのサジダをサジダ・サハウといいます。[4]

C　サラートの時刻を過ぎてしまったとき

サラートをやらないうちにそのサラートの時刻が過ぎてしまった場合、なるべく早くそのサラートをやらなくてはいけません。このように遅れて行なうことを、カダーといいます。
例えば寝坊してファジュルのサラートに遅れてしまった場合、いそいでウドゥーをし、遅れた分のサラートをやります。

---

[4] イマームの後についている時は、後にいる人は間違えても訂正の必要はありません。集団礼拝においては、イマームが正しいサラートの責任を負って後の人々の盾となるからです。もしイマームが間違いを犯し、それに対する訂正のサジダを行なえば、後の人はそれを真似すればよいのです。

そのときの意志は「アッラーをたたえて、今朝の（あるいは何月何日の）ファジュルのサラートを、カダーで行ないます」のようにします。

基本的には、スンナおよびナフルのサラートにはカダーはありません。

D 集団礼拝に遅れてしまったとき

集団礼拝にやって来たとき、もしすでにサラートが始まっていた場合、次のようにします。

1、列に空きがあれば列に並び、なければその後ろに並びます。

2、おちついて「サラートの意志表示」を心の中でします。

3、両手をあげて「アッラーフ　アクバル」と唱え、手を組みます。

4、そのまま皆の動作に参加します。みながルクーをしていればルクー、サジダしていればサジダ、座っていれば座ります。

5、そのまま最後まで一緒に行ない、イマームが「アッサラームアライクム　ワラフマトッラー」と唱えた時点で、もしラカートの回数が足りていればそのまま皆と一緒に終わります。

どのラカートに間に合ったかは、皆の動作に参加したとき、ルクーに間に合ったかどうかで判断します。もしルクーに間に合っていれば、その回のラカートは有効です。しかしルクーに間に合わなければ、そのラカートは数えません。

6、イマームが「アッサラームアライクム　ワラフマトッラー」と唱えた時点で、もしラカートの回数が足りていなかった場合、ほかの人たちが右を向いているときも自分一人は正面を向いたままでいます。

そしてイマームがもう一度「アッサラームアライクム　ワラフマトッラー」と言って左を向いたときに一人で立ち上がり、足りなかった分のラカートを行ないます。その時、「スブハーナカッラーフンマ……」および「アウーズビッラーヒ……」「ビスミッラーヒ……」『開端章』『もうひとつ別の

章』を読んで、サラートの足りなかった要素を全て補います。

７、最後にもう一度座って終了の言葉を唱え、終了します。

E　旅行中のサラート

旅行をすると、普段自分が住んでいてよく知っている場所から離れることでいろいろと不便があり、サラートも大変なものです。イスラームでは「旅行者」に限ってサラートを短縮できます。また、ズフルとアスルを同じ時間に、マグリブとイシャーを同じ時間に続けて行なうこともできます。

・「旅行者」の条件

旅行している人全てがイスラームでいうところの旅行者ではありません。イスラームにおける「旅行者」とは、次の条件にあてはまる人です。

自分の普段住んでいる場所からおおよそ８０キロメートル以上離れた場所へ行き、そこに１５日未満（つまり１４日以下）滞在しようという意思を持っている人。

つまり、たとえ日帰りの旅でも８０キロ以上の距離を移動すれば、その人は「旅行者」としてみなされます。

また、８０キロ以上の所にあるホテルや旅館にたどりつき、そこで十分くつろいだとしても、そこでの滞在予定が１５日未満であれば、その人はまだ「旅行者」です。しかし、目的地が８０キロ未満であったり、到着地での滞在予定が１５日以上であった場合は普段通りのサラートをします。

また、注意して欲しいのですが、「旅行者」になるか否かはその人の「予定」によります。つまり８０キロ以上１５日未満の旅行の予定のある人は、自分の家を出た時から「旅行者」です。例え自分の家から１０キロしか離れていなくても、あるいは帰りに自分の家の近くまで来ていても、自分の家にたどりつくまでは「旅行者」です。

またたとえばある人が８０キロ以上１５日未満の予定である場所に泊まっていたとします。その間ずっと短縮と結合のサラートをしていましたが、急に滞在予定を延長し、１５日以上滞在することにしました。その瞬間からその人は「旅行者」ではなくなり、その次の回からのサラートは平常通りにやらなければなりません。ただし、それまで行なった短縮・結合礼拝はやり直す必要はありません。また、旅行先で集団礼拝に参加し、地元のイマームの後につく場合、イマームに従って平常通りの回数を行ないます。

F　短縮礼拝と結合礼拝のやり方

それぞれのサラートにおける短縮の仕方は次の通りです。

ファジュル	：２ラカート → そのまま
ズフル	：４ラカート → ２ラカート
アスル	：４ラカート → ２ラカート
マグリブ	：３ラカート → そのまま
イシャー	：４ラカート → ２ラカート
ウィトル	：３ラカート → そのまま
ジュムア	：旅行者にとってジュムアは義務ではないので、参加しなくても構いません。代わりに２ラカートのズフルをします。
スンナ	：旅行中はスンナは重要度が下がり、ほとんど任意のサラートと同じ程度になります。ですから、やってもやらなくても構いません。しかしもし行なうとすれば短縮はしません。

短縮礼拝はラカートの回数が減って短くなる他は、それぞれのサラートのやり方と同じです。

結合礼拝はズフルの時間、もしくはアスルの時間にズフルとアスルを続けて行ない、マグリブの時間、もしくはイシャーの時間にマグリブとイシャーを続

けて行ないます。ファジュルは他のサラートと結合しません。

自動車、列車、飛行機、船などの中でも、ふらついて転ぶ心配がなければ立ってサラートすべきです。そうでなければ座ったままサラートできます。乗り物に乗っている時も、できる限りマッカの方角を向きます。

G けがをした時のサラート

イスラームの教えはあらゆる時代、あらゆる状況に対応しています。例えけがをしたり病気をしたりしていても、サラートをする方法はあります。また無理はありませんから、けがや病気が重くて意識がもうろうとしているような場合は免除になります。それでも、病気やけがの時のサラートのやり方があるということは、サラートがどれだけ重要かということを物語っているのです。

・けがをした時のウドゥー

出血をするとウドゥーは壊れてしまいますから、けがをした時はウドゥーの前に手当てが必要です。例えばもし指を切ったりして指に包帯や絆創膏を巻いている場合、濡らした手で一度包帯の上からなでることで洗う代わりになります。また、骨折して足にギプスを巻いているような場合も同じです。この時、絆創膏やギプスの全体をなでる事がポイントです。

ベッドからまったく動けないような場合、ウドゥーの代わりにタヤンムムをします。（６６ページ「タヤンムム」参照）

H からだが不自由なときのサラート

けがや病気などで通常のサラートの動作ができない場合には、どんな姿勢でもサラートはできます。例えば、膝の関節が悪くて正座ができない場合、椅子に腰かけてサラートできます。このとき、ルクーやサジダの代わりに、それを示す動作をすれば良いのです。その時、ルクーとサジダの違いが分かるように、

前への傾き方で区別します。サジダを示すのには、ルクーより深く傾きます。

片足をギプスで固定している場合、その足は前へ投げ出して床にすわり、そのままサラートできます。足に障害のある人も同じです。

ベッドに寝たきりの場合、もしできればベッドを動かして足をマッカの方向に向けてもらいます。そうして上体か頭を少しだけ起こしてもらい、そこに枕などをあてがいます。そうしてその姿勢でサラートします。ルクーやサジダは頭のわずかな傾きかげんで区別します。ベッドを動かせない場合、顔を右か左に傾けてマッカの方角を向き、サラートします。痛みなどにより顔をマッカの方角に向ける事ができない人は、どちらを向いたままサラートをしても構いません。このように、どんな場合でも無理なくサラートができるのです。

3　ザカート

A　ザカートの意味と重要性

ザカートは、イスラームの基礎となる第三の柱です。これは財産に余裕のあるムスリム（イスラーム信者）に対し、至高なるアッラーが命じられた義務の一つであり、その人の財産から一定比率の金銭や現物を支払うことを意味するものです。ザカートは毎年の終わりに、それぞれの人の収入資源と貯蓄の双方に課せられます。クルアーンにも、ザカートについてサラートの務めと同じ章や節にしばしば述べられています。

『本当に信仰して善行に励み、礼拝の務めを守り、定めの喜捨をなす者は、主の報奨を与えられ、恐れもなく憂いもない。』雌牛章（第2章）277節

『これは英知の啓典の徴節（印）であり、善行に勤しむ者への導きであり、また慈悲である。礼拝の務めを守り、定めの喜捨をなし、また、来世を堅く信じる者たちへの（導きであり慈悲）である。
これらの者は主の御導きの許にあり、かれらこそは成功する者である。』ルクマーン章（第31章）2～5節

このように、サラート（礼拝）は言葉と動作による至高なるアッラーに対する崇拝の行為であり、ザカートは財産による崇拝の行為なのです。アッラーへの崇拝の気持ちがなくては、この二つの行為は精神的な意味を持ちません。

あるとき預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）のところに、一人の男がやって来て尋ねました。「私を天国に入れる行ないを教えてください。」預言者（彼の上に祝福と平安あれ）はこうお答えになりました。「あなたは至高な

るアッラーを崇拝し、かれにどのような同位者も立ててはいけない。サラートをきちんと行ない、ザカートを支払い、親戚と良い関係を保ちなさい。」

イスラームは信仰とそれに密接に結びついた行ないからなります。クルアーンの中には「サラートを確立し、ザカートを支払え」というくだりが数多く出てきますが、このように精神的行為であるサラートと実際の行動（この場合は福祉）とが密接に結びついているのがイスラームの特徴です。信仰が単なる個人の精神的満足のための信心で終わらず、社会に向かって行動する方に向いているのです。博愛や慈悲の精神による福祉は様々な所にありますが、イスラームにおけるザカートは崇拝行為の一種です。サラートやサウムが体を使って行なう崇拝行為であるように、ザカートは金銭を使って行なう崇拝行為なのです。ムスリムはザカートによって自分の財産を清め、至高なるアッラーの恵みに感謝し、来世への投資とするために施すのです。

実際には、イスラーム国家がある場合、ザカートの支払能力のある人々からザカートを徴収するのは国家の義務です。しかし、非イスラーム国家では、至高なるアッラーと社会に対するこのザカートの務めは、ムスリム各人の自発性に任されています。したがってムスリム兄弟たちが互いにその務めに注意を促し合っています。

B　ザカートの精神

富は至高なるアッラーの恵みです。至高なるアッラーは宇宙の創造主であり、保持者であり、人間が持っているあらゆるものの本当の所有者です。クルアーンでこう語っています。

『誰が天と地を創造したのか。また誰があなたがたのために、天から雨を降らせるのか。それでわれは、美しい果樹園をおい茂らせる。そこの樹木を成長させることは、あなたがたには出来ない。・・・』蟻章（第27章）60節

至高なるアッラーこそあらゆるものの本当の所有者であり、私たち人間は富を託されたにすぎないのですから、財産はアッラーの御意志に沿った方法で使うべきです。財産を築くことは、それ自体が目的ではなく手段ですから、正しく使うことを考えなければなりません。また至高なるアッラーへの純粋な信仰のほかに、アッラーから見て最も大切なことは、親切と慈善、忍耐と他人への思いやりであると述べられています。

『順境においてもまた逆境にあっても、(主の贈物を施しに)使う者、怒りを押えて人びとを寛容する者、本当にアッラーは、善い行ないをなす者を愛でられる。』イムラーン家章(第3章)134節

このように至高なるアッラーは、創造物に対する謙譲の心、正しい欲求を充たすための中庸の道、煩悩の制御および寛容と博愛の精神を私たち人間に命じておられ、同時に、傲慢、享楽の追求、物質への欲望の追及を控えるように求めておられます。ですから、サラート(礼拝)は心のおごりを清め、サウム(斎戒)は肉体的欲望を制御し、ザカートは財産へのどん欲を克服するためでもあるのです。

これらの行ないすべての背後にある本質は、至高なるアッラーへの帰依、至高なるアッラーのすべての恵みに対する感謝、至高なるアッラーの寛容と慈愛への希望です。

特に、財産に余裕のあるムスリムがこのザカートの務めを果たすことは素晴らしいことです。それは、至高なるアッラーからの恵みに対する感謝の気持ちと、他人を助けることのできる喜びです。ザカートを払うことは至高なるアッラーへの務めですから、人はザカートを与えた相手に何かしてやったように考えてはなりません。むしろ自分のザカートを受け取る相手がいることに感謝しなくてはなりません。貧しい者がザカートを受け取るのは正当な権利であり、それを与えることは裕福な者の義務だからです。イスラームの他の信仰行為と

同様に、ザカートを与えたり受け取ったりすることは、双方の意図が純粋で誠実でなくてはならないのです。

C　ザカートの効果

ザカートの道徳的・物質的な効果は明らかです。ザカートを施すことは、その人の財産に対するどん欲な気持ちを洗い清め、貧しい人に対する慈悲の心を育てます。そしてザカートを受けることは、その人の心から金持ちに対する羨望と反感の情を和らげ、彼の心の中に親愛の情を生みます。至高なるアッラーはクルアーンの中でこう言われています。

『天と地の凡ての鍵は、かれに属する。かれは、御心に適う者に恵みを広げ、またひき締められる。本当にかれは凡てのことを知り尽される。』相談章（第42章）12節

『かれこそはあなたがたを地上の（かれの）代理者となされ、またある者を外よりも位階を高められる御方である。それは与えたものによって、あなたがたを試みられるためである。・・・』家畜章（第6章）165節

このようにムスリムは、金持ちであれ、貧しい者であれ、みな現世でどう生きるかを至高なるアッラーに試されています。財力のある者は寛大で慈善の気持ちを持ち、至高なるアッラーから授けられたものをムスリム兄弟に分け与える義務があり、貧しい者は忍耐し、他人を羨んだり嫉妬したりする心を抑えるよう努力する義務があります。来世での人の運命を決定するものは現世での富や地位ではなく、その人の至高なるアッラーへの帰依の心、美しい品性および至高なるアッラーから授けられたものをいかに使うかにかかっています。

イスラームの経済原則は、クルアーンに記されているとおり、富を正しく、

そしてバランスよく分配することにあります。

『･･･それはあなたがたの中の、ただ富裕な者の間にもっぱらわたらせないためである。･･･』集合章（第59章）7節

このようにイスラームでは、富の死蔵と無制限な蓄積を禁じていますが、富の強制的な平等分配も認めてはいません。むしろイスラームは中庸を勧めています。イスラームの教えに従えば、生活の手段や収入は合法的で正しいやり方で行われ、それによって得た利益は社会に正しく分配するようになるのです。

イスラームにおける富の社会への還元と分配は、ザカートとサダカです。ザカートは義務であり、サダカは自発的なものです。ザカートが正しく行われるならば、社会の差別と貧困を抑制する大いなる力となり、他人に対して互いに愛と尊敬の心を持ち、他人の幸福に関心をもつ人びとの社会を作り上げてゆくでしょう。

ザカートを人に与えることは、優越感とは全く関係がありません。それはサラート（礼拝）と同じく信仰に基づいた義務であり、ザカートを支払うことによって、その人はムスリムとしての行ないを果たしたことについて至高なるアッラーに感謝し、自分の罪の赦しを願って至高なるアッラーに祈らなければならないのです。

D　ザカートの支払いが義務となる人

ザカートの支払いが義務なのは、成人の男女ムスリムで、ニサーブに相当する金額の財産をイスラーム暦で一年間所有していた人です。

・ニサーブ

ニサーブというのは、ザカートが義務になる最低余剰財産のラインのことで、これ未満の財産しか持っていない人にはザカートは義務ではありません。つま

り収入がいくら多くても、必要経費や生活費が高くてお金が残らない場合、ザカートは義務にはならないのです。

・ニサーブの計算方法

ニサーブの計算方法は、金８７、4.8グラムの時価か、銀６１２、３６グラムの時価どちらか低い方をとります。イスラーム暦は太陰暦なので、一年は通常私たちが用いる西暦より短いので注意が必要です。ザカートを払う人は自分で任意に決算日を決め、そこから一年さかのぼって計算しますが、多くの人はラマダーン月を決算日にしています。

E　ザカートの支払いが義務でない人

ザカートはイスラームの多くの決まりと同様、能力のない人には義務ではありません。そこで次の人はザカートを支払う必要はありません。

ー財産がニサーブに満たない人

ー正気を失っている人

ー未成年

F　ザカートの計算

・何にザカートがかかるか

ムスリムの財産のうち、ザカートの義務が発生するのは以下のような財産です。以下の財産をニサーブ以上１年間所有していた人は、その財産に対しザカートを支払わなければなりません。

ー現金

ー金および金製品

ー銀および銀製品

ー在庫商品

ー家畜

ー農作物（収穫毎）

・ザカートの義務がないもの

ー家庭用品あるいは個人の物品（例えば家、衣服、食器、家具、自動車、パソコン、電話機、本など）

ー商売目的以外の物品（例えば商用車、事務機器、借りている事務所）

ザカートの計算は別表のようにされていますが、それぞれの計算についてはムスリムの学者、あるいは当センターへご相談ください。

	財産	最低限	率
1	農産物	収穫毎 1568 g 以上	人為的水利の場合：5% 雨水の利用の場合：10%
2	金銀および金銀装飾品	金 88 g または銀 617 g	価格の 2．5%
3	現金	銀 617 g 相当	2．5%
4	商品	銀 617 g 相当	2．5%
5	鉱業	最低限なし	価格の 20%
6	牛、水牛	30 頭	30 頭につき 1 才のもの 1 頭 40 頭につき 2 才のもの 1 頭
7	羊、山羊	40 頭	初めの 40 頭に対して 1 頭 120 頭に対して 2 頭 300 頭に対して 3 頭 後 100 頭毎に 1 頭

8	ラクダ	5頭	24頭まで、羊か山羊1頭 25〜35、1才もの雌ラクダ1頭 36〜45、2才もの雌ラクダ1頭 46〜60、3才もの雌ラクダ1頭 61〜75、4才もの雌ラクダ1頭 76〜90、2才もの雌ラクダ2頭 91〜120、3才もの雌ラクダ2頭 121頭以上、40頭毎に2才もの雌ラクダ1頭または50頭毎に3才もの雌ラクダ1頭

G　ザカートを受ける資格のある人

ザカートを受ける資格のある人について、クルアーンでは次のように述べられています。

『施し〔サダカ〕は、貧者、困窮者、これ（施しの事務）を管理する者、および心が（真理に）傾いてきた者のため、また身代金や負債の救済のため、またアッラーの道のため（に率先して努力する者）、また旅人のためのものである。これはアッラーの決定である。アッラーは全知にして英明であられる。』悔悟章（第9章）60節

ですから、ザカートを受ける資格があるのは次のような人々です。

ー貧困者：自分と家族を支えるだけの充分な財産を持たない者

ー罹災者：災害のために財産を失ってしまった者

ーザカートを集めて管理する者：この仕事にたずさわる人の賃金はザカート基金から支払われます。ある学者の見解では、イスラーム国家の国税庁や公共団体の職員は、これに含まれます。

ーイスラームへの改宗者：イスラームに改宗したために財産を失った者は、当然救済され、きちんとした生活に立ち直るように助けられるべきです。

ー自由を束縛されている者：ムスリムの人質や戦争捕虜を釈放する身代金の支払いが含まれます。

ー債務者：合法的な必要経費がかさんでできた債務の返済が出来ずに困っている者。しかし、大げさな結婚式や、その他自分の見栄や浪費によってできた債務の返済には当てはまりません。

ー旅行者：イスラームの布教、学問の修得、商売などの正当な理由で自分の住まいを離れた地で困っている者は、この部類に入ります。ザカートは、この種の救済活動を行っている福祉団体に対しても支払われます。

ー至高なるアッラーの道に奉仕する者：これはもっぱらイスラームの布教活動を行なう人や、イスラームの知識を探求する学者や学生、それから社会のために有益な組織を作り改善する人、例えば病院、孤児院、教育研究所、図書館、モスク、イスラームの奉仕団体、あるいは知識の普及団体などの団体や職員を指します。

H　ザカートを受ける資格のない人

次の人々あるいは用途にはザカートを支払うことはできません。

ー非ムスリム

ー預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）の直系の子孫

ーザカート支払い者の祖父母、両親、配偶者、子供、孫

ーザカート徴収人以外の給料としての支払い

ー裕福な親のいる子供

ー故人の借金の返済のため

ー葬儀費用のため

ーモスクの購入や建築のため

I　ザカートに関する各種の規定

ザカート提供者の扶養家族はザカートを受けることができません。ザカート受給者に必要以上を与えてはならないし、ザカートを受ける権利のある者も必要以上を受け取ってはなりません。政府へ支払った税金はザカートには含まれませんが、政府がザカートとして徴収している場合はかまいません。

ザカートの提供者はこの務めを実行することによって、おごり高ぶったり売名したりしてはいけませんが、もし自分がザカートを支払ったことが他人を励まし、善行への競争心をあおるような健康的なものであれば、名前を公表することも許されます。

受給者に自分のもらったものがザカートであることを告げる必要はありません。ザカートを受ける資格のある人が遠慮してザカートは受けたくないと言う場合には、その出所を特に言わないで与えてもかまいません。しかし提供者はそれをザカートと意識して支払います。

ザカートは前に述べたような個人や団体に直接に渡されます。提供者は、その相手が本当にザカートを受け取る資格があるかどうかを、出来るだけ明確に判断しなくてはなりません。イスラーム政府がある場合には、ザカートは公的機関を通して税金と同じように集められ、その分配は政府の特別部門の仕事です。しかし非イスラーム国でのザカートの支払いは、それぞれのムスリムが自分の責任で支払う義務があります。

日本でザカートを支払う場合、個人が自分で貧しい人などを探したり、他のムスリムからの紹介してもらったり、あるいは自分の信頼するイスラーム団体がザカートの分配を行っている場合、その団体に任せるという方法があります。

J　どのようにザカートを支払うか

ザカートを支払うときには、ニーヤ（意志）が必要です。もしニーヤなしにザカートに相当するお金を払ったり施した後で、あれはザカートだったことに

しようと考えた場合、そのザカートは無効です。もしザカートを支払った後でザカートを払うべきではない相手に施してしまったと気がついた場合、そのザカートは有効です。ザカートを支払うときは施された相手にそれがザカートであることを告げる必要はありません。

K　サダカ

ザカートは経済的に余裕のあるムスリム男女に課せられた一つの義務ですが、サダカはその他のあらゆる慈善行為をさします。私たち人間が持っているものは全て至高なるアッラーの恵みであり、その中から金銭や自分の能力を提供して他人を助けることは人間の務めです。至高なるアッラーはクルアーンでこう述べています。

『あなたがたは愛するものを（施しに）使わない限り、信仰を全うし得ないであろう。あなたがたが（施しに）使うどんなものでも、アッラーは必ず御存知である。』イムラーン家章（第3章）92節

さらに何を慈善の為に使うかについて、至高なるアッラーは次のように語っています。

『･･･またかれらは何を施すべきかをあなたに問うであろう。その時は「何でも余分のものを」と言ってやるがいい。･･･』雌牛章（第2章）219節

そして施し方については、それを受け取る人の人格が傷つかないように気を配り、匿名で施したり、自分の行為を見せびらかしたり高慢になったりしないように注意するべきです。至高なるアッラーはこう語っています。

『信仰する者よ、あなた方は人々に見せびらかすため、持物を施すように、負担侮辱を感じさせて、自分の施しを無益にしてはならない。･･･』雌牛章（第2章）264節

『親切な言葉と寛容とは、侮辱を伴う施しものに優る。アッラーは富有にして慈悲深くあられる。』雌牛章（第2章）263節

施しをする相手は、まず自分の家族、扶養者からはじめて、親族、孤児、貧しい人、困っている人、未亡人、債務者、旅行者、至高なるアッラーの道の布教者、そして最後に、救助を必要とする一般人に対するように拡大してゆくものです。至高なるアッラーはこう語っています。

『かれらは、如何に施すべきか、あなたに問うであろう。言ってやるがいい。「あなたがたが施してよいのは両親のため、近親、孤児、貧者と旅路にある者のためである。本当にアッラーはあなたがたの善行を、何でも深く知っておられる。』雌牛章（第2章）215節

『（あなたがたの良い施しは）アッラーの道のために、心をいためながらも、大地を闊歩出来ない困窮者のため（のものである）。かれらは控え目であるから、知らない者は金持であると考える。あなたがたはその様子から察しなければならない。かれらはしつこく人びとに請わないのである。あなたがたがよいものを施せば、アッラーは必ずそれを熟知されておられる。』雌牛章（第2章）273節

最後に、より広い見地からして、慈善の意義は援助を必要としている者に対して与える金や物だけに限らないことが強調されています。それは他人を助けるためにする行為や言葉のすべてを含んでいます。例えば時間、労力、利害関係、同情心、援助の気持ち、親切な言葉なども含まれます。他人が必要としていることに良く気を配り、病人を見舞い、葬儀に参列し、近親者に死なれた者を慰めること、また、笑顔で人に接すること、これらすべてが慈善の行為なのです。

この慈善行為を通して、私たちが真のイスラーム友愛精神を成し遂げることができるよう、至高なるアッラーのお導きがありますように。

4　サウム

A　ラマダーン月とクルアーン

ラマダーン月はイスラームにおいて非常に重要な月です。ラマダーン月にムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）がマッカ近くのヒラーの洞窟にこもっていた時、クルアーンの最初の啓示が下されました。

『読め、「創造なされる御方、あなたの主の御名において。一凝血から、人間を創られた。」読め、「あなたの主は、最高の尊貴であられ、筆によって（書くことを）教えられた御方。人間に未知なることを教えられた御方である。」』凝血章（第96章）1 - 5節

アッラーはクルアーンの中でこう言われています。

『ラマダーンの月こそは人類の導きとして、また導きと（正邪の）識別の明証としてクルアーンが下された月である。それでお前たちのうちこの月家にいる者は、この月中サウムしなければならない。』雌牛章（第2章）185節

アッラーの御言葉であり、イスラームの最も重要な啓典であるクルアーンは、ラマダーン月に下されました。この月はイスラームの聖月にあたります。ラマダーン月にはクルアーンをいつもよりもよく読み、現世の仕事や遊びより祈りや精神的な修養により時間を費やすことが求められます。

ラマダーン月は、イスラーム暦の第９番目の月にあたります。イスラーム暦は月の運行にもとづく暦ですので、私たちが通常使っている太陽の運行をもとにした暦とは違います。一年でおよそ１１日短く、したがってラマダーン月も毎年約１１日間早く繰り上がっていきます。年を重ねるとラマダーン月も冬、

秋、夏、春と全ての季節に順番にめぐってきます。これはどういうことかと言えば、世界中のどんな地域に住んでいるムスリムも、公平に全ての季節でサウムをしなくてはならないということです。実際サウムは冬には気候も寒く、日も短いのでやりやすいのですが、夏は暑く日も長いので他の季節よりも大変です。もしサウムがある特定の季節に限られていれば、ある国のムスリムはいつも楽なサウムを行ない、他の地域のムスリムは、ずっと苦しいサウムを行なうことになります。ラマダーン月が毎年ずれてゆくことで、世界中のムスリムは全ての季節のサウムを体験することになります。

B　ラマダーン月とサウム

ラマダーン月のサウムはイスラームの五柱、つまりイスラームで最も重要な5つの義務の一つです。あらゆる成年のムスリムは、男性も女性も、ラマダーン月の1ヶ月間には毎日暁から日没までの間サウムをしなければなりません。これは単なるダイエットや肉体的な苦痛のためではなく、精神的な行であり、アッラーに対する崇拝と服従を表す祈りの一つの形なのです。

アッラーは私たち人間を創造され、私たちに生命や身体をはじめ毎日の生活に必要なさまざまなものを与えて下さいました。私たちが健康で生活できるのも、毎日の食事が食べられるのも、アッラーがそれを与えてくれているからです。例えば人間は努力しますが、ほんの少し雨が降らなかったり、冷夏だったりするだけで、飢饉になります。いくら科学技術が進歩しても、アッラーがほどよい天気にしてくれなければ人間にはどうにもできません。アッラーは私たちの創造主であり、人間を養っている偉大な存在です。しかし人間は日常に慣れ、その恵みをあたりまえのことと思いがちです。サウムを行なうことによって、私たちは普段忘れているアッラーの恵みを改めて認識し、より一層、感謝と服従の気持ちを新たにすることができるのです。

また、私たちはアッラーのしもべであり、アッラーは私たちの主です。です

から、アッラーが私たちに一定の期間、食欲や他の欲望を控えるように命じられたなら、私たちは従わなければなりません。アッラーはクルアーンでこう語っておられます。

『信仰する者よ。お前たち以前の者に定められたように、お前たちにサウムが定められた。おそらく、お前たちは主を畏れるだろう。』雌牛章（第2章）183節

サウムには多くの利益があります。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）は次のようにおっしゃっています。

「誰でもラマダーン月に誠実な信仰とアッラーからの報奨を期待してサウムする者は、以前の罪を全て許される」

またサウムの効用の一つとして、自分の自制心・克己心を強くする作用があります。私たちは毎日の生活の中でたくさんの欲望を満たし、自分の健康に害があることを習慣にしていることもあります。私たちが欲望に常に忠実であり続けると、私たちは自分の欲望の奴隷になってしまいます。サウムを行なうことによって、私たちは欲望に支配されるのではなく私たちが欲望を支配し、自分の生活を抑制する精神的な強さを得ることができるのです。

またサウムをすることによって、私たちは食べ物のない貧しい人々の不幸をわずかでも体験することができ、それによって貧しい人々に対する同情心や親近感がわきます。またサウムという行事を通じて、私たちは自分が世界中のムスリムと一体になったと感じ、同胞意識を確認するのです。医学的にも、サウムは血液中の脂肪分をとり、腸内の細菌や乳酸の有害な働きをおさえるなど、健康にもよいことが解り始めています。

しかし、これらはどれも二次的なことです。私たちはアッラーからサウムを命じられました。そこでアッラーの忠実なしもべとしてアッラーのお喜びを求

め、精神的にアッラーへ近づくためにサウムを行なうのです。

C　ルーヤ・アルヒラール（新月の観測）

ラマダーン月の始まりと終わりは新月の観測によって決まります。これをルーヤ・アルヒラールと言います。現代は計算によっておおよそのラマダーン月の始まりは分かりますが、実際の始まりは肉眼で観測して決定します。

イスラームの暦は月をもとにしているので、一日は日没から始まります。ムスリムの多い地域では、シャアバーン月（イスラーム暦８月）２９日の日没後に子供も老人も建物の屋上や山の上に登って一心に目をこらして新月を見つけようとします。もしそれでシャアバーン月の２９日に新月を見つければ、ラマダーンが始まり、その夜からタラウィーフのサラートが行われ、翌朝からサウムが行われます。新月はとても細く、また地平線の上に登っている時間は日没直後の短い時間なので、天気が悪かったり空気が澄んでいなければ月を見つけるのは難しいです。もし誰も月を見つけることができなかった場合、シャアバーンの３０日を終えてからラマダーン月が始まります。ですから、隣り合う別の国で、ラマダーン月の始まりと終わりがずれることもあり、それはそれで全くかまわないのです。日本のようにイスラームの国でもなく、天候のために新月を見つけるのが難しい国では、新月が確認できなかった場合、一番近いイスラームの国であるマレーシアの日程に合わせることになっています。

D　サウムのやり方

・ニーヤ（意志）

サウムを始めるにあたっては、まずサウムをするニーヤ（意志）が必要です。口で言う必要はなく、本人がサウムすることを分かっていれば十分です。

・サフール

サウムの時間はファジュル（日の出より前の地平線に曙光がさしたとき）からマグリブ（日没）までです。このファジュルとはファジュルのサラートが始まる時刻と同じです。空の白み始める前に起きて、サウムに備えて軽く食事をとります。この食事のことをサフールと言います。これは預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）のスンナ（実践）です。これによって一日の体力を損なわない程度にサウムをすることができます。しかしこの時の食事でお腹をいっぱいにするのは好ましくありません。この時の食事には、あまり塩味のきいたものや、強い味付けのものを避け、タンパク質を多く含んだ食べ物が良いとされます。

サフールを食べる時刻は遅い方が良いのですが、ファジュルまでには飲食を終え、歯を磨くなどしてサウムに備えるべきです。

サフールを終えたら、この日一日のサウムを行なうというニーヤを持ちます。たとえば、「アッラーよ。あなたの命令に従い、今日一日のサウムを行ないます」と意図します。食事をしてからファジュルのサラートが始まるまでのしばらくの間は、クルアーンの読誦や祈りに費やします。そしてファジュルのサラートの時刻に入ったら、日の昇る前までにサラートをささげます。

E　サウム中やってはいけないこと・望ましくないこと

サウムを始めたら、昼の間は一切の飲食や喫煙、性行為をしてはいけません。一切のとは、例え一粒の米やウドゥーのときに口をすすいだ水の一滴ものどを通ってはいけないと言うことです。さらに口に入れたものを呑み込んだり、鼻や口から、あるいは注射器や座薬によって体内に薬や栄養剤を入れることもサウムを破ることになります。

しかしうっかりとサウム中であることを忘れていて、無意識に飲食したり、何かを口に入れたりした場合、気が付いた時点ですぐにやめ、そのままサウム

を続ければ良いです。香水、こう薬、化粧クリーム、外用薬の使用、歯を磨いて口を軽くすすぐこと、無意識に唾を飲み込むこと、身体を洗うことなどは、サウムを破ることになりません。

また、サウムを直接破ることにはなりませんが、けんかや議論、他人の悪口や猥談などはサウムの精神的な効果を落とすので慎むようにします。イスラームのサウムは単に食べないと言うことではないのです。食事をしないことによる空いた時間を、こんな悪い方向に向けないように気を付けたいものです。

F　サウム中するべきこと・許されること

ラマダーン月はサウムという行を通じて、自分を精神的に磨く月ですから、普段よりもよい生活習慣を心がけるべきです。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）は次のようにおっしゃっています。

「ラマダーン月、祝福の月が近づいてきた。その月の間には、アッラーはあなたたちの方を向かれ、かれの特別の慈悲を下される。またあなたたちの過ちを許され、祈りを受け入れられる。あなたちが良い行ないをお互いに競い合うのをご覧になり、天使たちの前であなたたちのことを自慢される。だからアッラーに対し、自分の良い所を見せなさい。真に最も哀れで不運な者は、この月にアッラーの慈悲にあずかれなかった者である」

そこでこの月には、普段よりずっと多くの時間を崇神行為に費やすべきです。まず、ラマダーン月とクルアーンには密接な関係があります。クルアーンの最初の啓示はこの月に下されました。そこでラマダーン月に一度、クルアーンの始めから終わりまで読破することが強く薦められています。

次に、義務のサラートは当然のこと、スンナのサラートやナフル（任意）のサラートもたくさん行なうべきです。ズィクル（アッラーの御名の唱念）やドゥアー（祈願）もいつもより多く行なうよう心がけます。

またサウムの目的の一つは、飢えや貧困とはどんなものかを体験して貧しい人に対する親近感を育てることにあります。ですから、施しをすることはサウムの目的に強くつながっていて、ムスリムは余裕のある範囲で、できるだけ多くの施しをすることが薦められます。たとえ金銭でなくても、サウムを解くときの食事に人を招いて一緒に食べることもその一環です。

また、多くの人がザカートの決算日をラマダーン月にしています。一年の貯蓄の2．5パーセントを貧しいムスリムに施します。

サウム中でも仕事をしたり買い物をしたり、禁じられていること以外は普通の生活をしてもかまいません。ただ、ラマダーンというこの聖なる月を良い機会に、仕事などの日常に全てをかけるのではなく、人間が生きている目的やアッラーの偉大さなどに思いを巡らせ、自分の人生をひとまず立ち止まってゆっくりと考えてみることが大切です。ラマダーン月というのは、まさにそういう精神的な意味のある月なのですから。

G　イフタール

日が沈むと、その日のサウムは終了です。日没後すぐになつめやしの実かミルクか水などを摂ってサウムを解きます。この食事をイフタールと言います。イフタールを始めるまえに、次のように唱えるのが預言者（彼の上に祝福と平安あれ）の実践です。

「アッラーフンマ　ラカスムト　ワビカ　アーマント　ワアライカ　タワッカルト　ワアラーリズキカ　アフタルト　ビスミッラーヒ　ラフマーニ　ラヒーム」

（意味：アッラーよ。あなたのために私はサウムしました。あなたを私は信じ、あなたに私は頼ります。そして今私はこのサウムを、あなたから来る食べ物によって破ります。慈悲あまねく慈悲深きアッラーのみ名において）

その後、マグリブ（日没後）のサラートを行ないます。マグリブのサラート

を終えてから、各人の好きなように十分な食事をとります。夜の間は普通と同じ生活ができます。けれどもその時に、昼間食べなかった分を埋め合わせようとして一度に食べ過ぎないように注意したいものです。

H　サウムを破ってもよい場合・免除される場合

次の人々はサウムをしなくてもよいことになっています。

ーサウムをすると病状が悪化する病人

ーイスラーム法で規定された「旅行者」：つまり 80 キロ以上の距離を移動して現地での滞在が 15 日未満の意志で自分の町を出た人。しかし旅行中でも特に苦痛なくサウムできるようであれば、サウムします。

ー妊婦、および乳飲み子を育てている女性が、サウムによって胎児や母体に悪影響がある場合

以上の人々はサウムを遅らせることができますが、サウムのできない条件が終わり次第、後日できなかった分の日数、サウムをやらなくてはなりません。

ー老人や虚弱なためにサウムにたえられない人：この人々はサウムの義務を免除されます。しかしもし金銭的に余裕があれば、自分がサウムできなかった日数一日につき、二食分の食事か、それに相当する金銭を貧しい人に施さなければなりません。

ー思春期に達しない子供：しかし子供のうちからサウムに対する心構えを持たせるために、数日間、あるいは一日のうちの数時間だけでもサウムを体験させるといいです。

病気や旅行、月経などの正当な理由がないのに、勝手にサウムをやぶるのは、アッラーに対する違反です。

I　サウムをしてはいけない場合

次の人はサウムをしてはいけません。

ー月経期間中の女性：彼女はラマダーン月の後にやらなかった日数分、遅れてサウムを行ないます。

ー出産後の出血がある間：彼女は出血が止まってからやらなかった分のサウムを行ないます。

J　カダーのサウム

正当な理由があろうとも、ラマダーン月の定められたサウムをしなかった場合やサウムを破ってしまった場合、後日同じ日数のサウムで埋め合わせをしなければなりません。これをカダーのサウムといいます。カダーのサウムは、ラマダーン月の後、なるべく早く行ないます。

K　カッファーラのサウム

食べたり飲んだり性交するなどしてわざとサウムを破った場合、その償いのため、後に自分で連続 60 日のサウムをしなくてはなりません。これをカッファーラのサウムといいます。もし体力的にそれができなければ、破った 1 日につき 60 人の人に 1 日 2 食の食事をふるまうか、同等額のお金を施さなければなりません。

L　フィドヤ

サウムが全くできない非常な高齢者や、死ぬまで治る見込みのない病人などはサウムの義務を免除されますが、その代わり補償金を払わなければなりません。これをフィドヤといいます。フィドヤは逃したサウム 1 日につき、貧しい人に 1 日 2 食分の食事をもてなすか、相当額のお金を施します。

M　タラウィーフのサラート

ラマダーン月の間には、毎日５回の義務のサラートのほかに、預言者（彼の上に祝福と平安あれ）の慣習であったタラウィーフと呼ばれるサラートがあります。このサラートは各自または集団で８ラカー（礼拝の単位）、１０ラカー、または２０ラカー行ないます。

実際にマスジド（礼拝堂）で行なう場合は、イシャー（夜）のサラートの後、スンナのサラートを終えてから集団で行ないます。２ラカーごとに終了し、４ラカーごとに少し休憩します。タラウィーフのサラートの後に続けて、普段は各個人で行なうウィトルのサラートも集団で行ないます。もしイマーム（サラートの先導者）がクルアーン暗記者であれば、毎晩クルアーンをこのサラート中に読み、ラマダーン月のタラウィーフで全クルアーンを読み切ります。

N　ライラトゥ・ル・カドゥル（力の夜）

ライラトゥ・ル・カドゥルはイスラームで非常に重要な夜です。アッラーはクルアーンで次のように語っておられます。

『真にわれはこの（啓示を）ライラトゥ・ル・カドゥル（力の夜）に下した。力の夜が何であるかをお前に理解させるものはなにか。力の夜は千月に優る。（その夜）天使たちと聖霊は主の許しのもとにあらゆる所に舞い降りる。暁までそれは平安である。』 みいつ章（第97章）1-5節

アッラーの啓示クルアーンは、ライラトゥ・ル・カドゥルに天上から第一天に下されました。またこの夜には天使たちが群をなして地上に下り、祈っている人々の許しを求めます。この一夜は精神的価値において千月に優ると言われています。この夜が何日なのかははっきりと分かっていません。しかしラマダーン月の最後の１０日に探さなければなりません。ラマダーン月２１日、２３日、２５日、２７日、２９日（の前夜／ヒジュラ暦は日没から始まるため）は

可能性が高く、特に２７日（の前夜）の可能性が最も高いと言われています。そこでムスリムはこの夜を求めて毎晩祈りに時を費やすのです。

・ライラトゥ・ル・カドゥルのドゥアー

イスラームにおける夜とは、マグリブ（日没）からファジュル（暁）までを意味します。その中でも最も祈りが聞き届けられ、精神的に重要な時間は夜の最後の三分の一です。この時間に起きてタハッジュド（深夜礼拝）をすることには大きな価値があります。ある時預言者の妻アーイシャが預言者（彼の上に祝福と平安あれ）にたずねました。「もし私がライラトゥ・ル・カドゥルを見つけたら、なんと言って祈れば良いでしょうか」預言者（彼の上に祝福と平安あれ）はこうお答えになりました。

「アッラーフンマ　インナカ　アフーウン　トゥヒッブル　アフワ　ファーアフアンニ（アッラーよ、あなたは最も許されるお方です。ですから私をお許し下さい）」

O　イイティカーフ

イイティカーフとは、お籠もりの意志とともにマスジド（礼拝堂）の中に籠もることです。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）はいつもラマダーン月の最後の１０日間にはイイティカーフをされました。イイティカーフとは、現世の一切の雑事を置いてアッラーに対する祈りやクルアーンの朗唱などに費やすことで、それによって通常の祈り以上の精神的な恩恵を得ます。イイティカーフの状態にある人は、眠っていても祈っているのと同じ状態にあると見なされます。

・イイティカーフのやり方

イイティカーフをするのに最良の場所は、マッカのカアバがあるマスジド

ゥ・ル・ハラームですが、どのマスジドで行なっても構いません。ラマダーン月２０日の日没前、お籠もりの準備をしてマスジドに入り、イイティカーフをするニーヤ（意志表明）をします。ひとたびイイティカーフが始まったら、正当な理由なしに中断した場合、その分を後でやり直ししなければなりません。イイティカーフはお籠もりですので、通常の生活をすることは許されません。基本的にマスジドの外に出ることができません。飲食や睡眠、更衣などすべてマスジドの中で行ないます。

イイティカーフ中に外出しても許される理由は、次のようなものです。

―便所に行くこと：マスジドに便所があれば、その便所を使用しなければいけません。

―風呂に入ること：マスジドにシャワー室が備えてあれば、それを使用しなければなりません。

―食事を用意してくれる人が誰もいない場合、家に食べ物をとりに行くこと：しかし食事はマスジドの中でしなければなりません。

―自分のいるマスジドで金曜礼拝がない場合、金曜礼拝に参加するために他のマスジドへ行くこと

これら以外の理由、例えば家族に会いに家に帰るとか、葬式や見舞いに行くなどはイイティカーフを破ることになってしまいます。イイティカーフの最中は、１日５回のマスジドのサラートに参列し、サウムし、空いた時間はクルアーンを読んだり任意のサラートに費やします。特にラマダーン月の最後の10日間にはライラトゥ・ル・カドルのチャンスがあるので、深夜礼拝は欠かさず行なうようにします。このようにして初心の通りお籠もりをするのです。シャウワール月の新月が確認されたならば、イイティカーフを終えることができます。

・女性のイイティカーフ

女性の場合は自分の家の一角をイイティカーフ専用の場所に定め、その中に籠もります。男性がマスジドに籠もる場合と同様、イイティカーフの最中は定められた理由なしにそこから出ることは許されません。ですから食事も家族の誰かに作ってもらうことになります。

P　サダカトゥ・ル・フィトゥル（ザカートゥ・ル・フィトゥル）

・誰が支払うか

サダカトゥ・ル・フィトゥルとは、ラマダーン月の間にする施しで、ザカートと同じくイスラームで定められた一定額の貯蓄（これをニサーブといいます）を所有している人全員の義務です。一般的に、家長である夫が妻や子供たち全員の分を払います。サダカトゥ・ル・フィトゥルによってアッラーはラマダーン中に犯した私たちの過ちをお許しになります。そしてそれは貧しいムスリム同胞がみなと一緒にイードを祝う助けになります。

・いくらをどのように、誰に支払うか

サダカトゥ・ル・フィトゥルはラマダーン月の間、少なくともイードのサラートの前までに払います。額は1．633キログラムの小麦か米、あるいは相当額のお金です。現代の日本では、約1500円になります。自分で貧しいムスリムを捜して与えるか、信頼できるイスラーム団体に任せます。

Q　ライラトゥ・ル・ジャーイザ

ラマダーン月は、その始まりと同じように新月を見つけることによって終わります。ラマダーン月２９日に新月が見つかればその晩はタラウィーフもなく、翌日は祝日ですから、全てのムスリムはサウムの行が終わったことに対する達成感と満足感で休みます。もし新月が見つからなければタラウィーフのサラー

トを行ない、翌日のサウムに備えます。いずれにせよ、イスラーム暦の他の月と同様にラマダーン月は２９日か３０日であり、それ以上にはなりません。しかし祝日の前夜もライラトゥ・ル・ジャーイザと呼ばれ、価値ある夜ですから、意欲のあるムスリムは祈りに時を費やします。

R　イードゥ・ル・フィトゥル

ラマダーン月の明けた翌日はイスラームの祝日です。アッラーの教えのサウムを成し遂げたことに対してアッラーに感謝し祝う日です。この祝日のことをイードゥ・ル・フィトゥルと言います。この日、午前中にムスリムは晴れ着を着て広場か大モスクに集まり、イードのサラートをささげます。その後自分の家族や友人たちを訪問したり、食事をしたりして幸せのひとときを過ごします。

・イードのサラート

イードのサラートは朝早くに行なわれます。ムスリムは晴れ着を着て広場に集まり、集団でイードのサラートを行ないます。イードのサラートは２ラカーで、普通のサラートのやり方に加えて６回のタクビール(「アッラーフアクバル」と唱えること）を唱えます。イードのサラートが終わった後はイマームの説教があり、その後ムスリムたちは休日を過ごします。

S　シャウワール月の任意のサウム

ラマダーン月の翌月をシャウワール月と言いますが、この月に６日間の任意のサウムをすることは、あたかも一年を通じてサウムするような報奨があると言われています。イードの日にサウムをすることは許されませんので、その翌日から、シャウワール月中であれば自由に６日間のサウムをすることができます。

○ラマダーン月の始まりと終わり、およびザカートの支払いなどに関しては、イスラミックセンター・ジャパンのホームページをご覧になるか、お電話で直接お問い合わせ下さい。

5　ハッジ

A　ハッジの意義

ハッジ（大巡礼）はイスラームの五柱と呼ばれる最も重要な五つの義務のひとつです。健康で十分な資金のあるムスリムは、少なくとも一生に一度ハッジを行なわなければなりません。ハッジは、ムスリムにとって信仰と実践の集大成というべきものです。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）は、布教２３年目に最後のハッジを行ないました。そして、その時に以下のクルアーンの節が啓示されました。

『･･･今日われはあなたがたのために、あなたがたの宗教を完成し、またあなたがたに対するわれの恩恵を全うし、あなたがたのための教えとして、イスラームを選んだのである。･･･』食卓章（5章）3節

また、この時のハッジに同行した約10万人の教友たち（彼らにアッラーのお喜びあれ）の前で、ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）はイスラームの教えの要約とも言うべき『別れの説教』を行ない、イスラームの精神を再確認し、自分の死期が近いことをほのめかし、教友たちに自分の後を継いで布教を続けていくように命じています。私たちはムスリムとして、アッラーと最後の預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）を信仰し、1日5回のサラート（礼拝）をし、ザカート（喜捨）を払い、ラマダーン月にサウム（断食）をし、ハッジを行い、預言者の教えに従って生きていくことが義務なのです。

B　審判の日

イスラームの重要な信仰の一つに審判の日があります。あらゆる人間は現世

での生活を終えていつか死にます。アッラーが人間をこの世界に送ったのは意味のないことではなく、誰が信仰するか否かを試すためです。
『ジンと人間を創ったのはわれに仕えさせるため。』撒き散らすもの章（51章）56節

人間にとって短く、不条理なことも多いこの現世は、人間が精神的にいかに成長し、アッラーに認められて天国に入るかという重要な試練の場なのです。それが精算されるのが審判の日です。

ハッジの象徴的な意味の一つは審判の日の疑似体験です。ハッジの最も重要な行事は、特定の日にアラファートという荒野に一日とどまることですが、その時、巡礼着をまとい、現世の一切の地位や虚飾を捨てた巡礼者たちは、いつかは自分が直面しなければならない審判の日を思い出すのです。

またイスラームには、全人類の共同体（ウンマ）という考え方があります。世界中のあらゆるムスリムは信仰によって結ばれた兄弟です。そしてイスラームでは、その理念を単なる理想にとどめないようにいくつかの実践があります。例えば毎日5回のサラートは、基本的にはマスジド（マスジド）で集団で行なうものです。そして毎週金曜日のジュムアのサラートは、大マスジドにより広い地域の人々が集まります。毎年2回のイードの大祭には、マスジドには収容しきれない人数の人々が広場に集まります。このように社会性を重んじるイスラームが、全人類・全民族を信仰という絆によってひとつに集める行事がハッジなのです。

C　ハッジの歴史的背景

ハッジの精神はすべてのものを犠牲にする心にあります。それは個人的な楽しみ、現世の悦楽、金儲け、家族や友人との団らん、きれいな服やアクセサリーなどの虚飾、民族・教養・職業・地位などに対するプライドなどの全てをな

げうって、アッラーに帰依する心なのです。

ハッジの行事の中には、預言者イブラーヒーム（アブラハム）に関わるものがいくつもあります。預言者イブラーヒームは一神教の父とも言うべき偉大な預言者です。彼はアッラーの命令により、自分の妻ハージャルとまだ赤ん坊の息子イスマーイールを砂漠の真ん中に置き去りにしなければなりませんでした。食料も水も尽き、ハージャルは水を求めてまずサファーの丘、続いてマルワの丘に登って水場を探しました。この行動を象徴する行ない（サイー）がハッジの行事の一つとなり、全巡礼者は彼女の行動を真似します。この時赤ん坊のイスマーイールが踵で掘った地面から水が湧き始めました。これがザムザムの井戸の起こりです。

またイスマーイールが、イブラーヒームにとって目の中に入れても痛くないほどに美しい少年に成長したとき、アッラーはイブラーヒームに息子を犠牲に捧げるように啓示しました。これは預言者としてのイブラーヒームの信仰を限界まで試すアッラーからの試練でした。彼はイスマーイールに相談しました。「わしはこのような啓示を受けたがどう思う」イスマーイールの答えは「アッラーのご命令のとおりにしてください」というものでした。そこでイブラーヒームはナイフを携え、イスマーイールを砂漠に連れていきました。途中、悪魔が人間の姿をして現れ、叫びました。「気でも違ったのか、イブラーヒーム。お前は自分の息子を手にかけるのか。それが人の道か。」「帰れ、悪魔！」イブラーヒームは石を投げて悪魔を追い払いました。悪魔はいったんは逃げ、再び道の途中でイブラーヒームの決心をひるがえそうとイブラーヒームに呼びかけました。しかしそのたびにイブラーヒームは石を投げ、悪魔を追い払いました。ついにイブラーヒームが息子を地面に横たえ、その首にナイフの刃をかけようとしたその時、アッラーは預言者イブラーヒームの決心が不動なのを確認し、イスマーイールを犠牲に捧げさせる代わりに天から羊を送り、預言者イブラーヒームとその息子を祝福しました。この父母と息子のアッラーに対する信頼と

犠牲の精神を讃え、この世の終わるまで信者の手本とするため、ハッジではこれらの故事に基づく行事がいくつもあるのです。

D　聖地マッカ（メッカ）とカアバ

カアバは、元来預言者イブラーヒームとイスマーイールがアッラーを讃え、かれに祈るための建物をアッラーに指定された場所に建てたものがその原型です。その後何度も再建され、現在のような立派な建物になりましたが、位置はそのままです。これはイスラーム以前から唯一神を信仰する場所としてありましたが、預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）が送られる直前にはマッカの多神教徒に支配され、巡礼の行事はそのままに、偶像崇拝の場所になっていました。ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）によって偶像が駆逐され、それ以来カアバは一神教の中心地として存続しています。

現在の建物は石を積みあげて作られた三階建てのビルくらいの大きさの建物で、全体を金の刺繍を施した黒い布ですっぽりと覆っています。扉がついていますが、中には何もありません。この建物はあくまでも象徴の意味であって、中に本尊があるとか、ムハンマドの遺品に関わるものがあるということではありません。アッラーは時空を超越する御方ですが、人間には方向がありますので、信者たちが揃ってサラートする方向として、カアバはその一点を示しているのです。

E　ハッジとウムラ

巡礼の行事にはハッジ（大巡礼）とウムラ（小巡礼）があります。ハッジは健康で十分な資力のあるムスリム全てが一生に少なくとも一度は行なわなくてはならないムスリムの義務です。そして、ハッジを行なう時期はヒジュラ暦（イスラームの暦）によって定められていて、自分の好きな時に行くというわけにはいきません。しかしウムラは一年中いつでも好きなときに行なうことができ

ます。また儀式もウムラがマッカ市内で数時間で済むのに対し、ハッジの場合はマッカ郊外の数ヶ所を訪れ、行事も数日に及びます。ハッジを行なうためにマッカを訪れたときに一緒にウムラを行なうことも出来、ハッジとウムラはその組み合わせ方によってハッジ・タマット、ハッジ・キラーン、ハッジ・イフラードの３種類あります。

・ハッジ・タマット

最初にウムラを行ない、髪の毛を剃るか切るかして一旦イフラームを脱ぎます。そしてハッジの当日に再びハッジのためにイフラームを着ます。ハッジの最後に犠牲の動物を捧げます。

・ハッジ・キラーン

最初にウムラを行ない、そのまま髪を剃らずイフラームも脱がないままでハッジの当日まで待ちます。ハッジの行事が終わり、犠牲の動物を捧げてから髪を剃るか切り、イフラームを脱ぎます。

・ハッジ・イフラード

最初からハッジだけを目的にイフラームを着てマッカに入ります。ウムラは行なわず、ハッジが終わるまでイフラームも脱ぎません。ハッジの行事が済んでからイフラームを脱ぎます。犠牲の動物は捧げる必要はありません。

F　ハッジへ出発するとき

ハッジあるいはウムラに出発する人は、事前にサウジアラビア大使館に問い合わせ、必要書類をそろえます。航空券やビザ、予防注射などの準備をして身辺を整理します。一般の旅行に必要な荷物の他に、巡礼着、ビーチサンダル、ポーチ、日傘などを用意します。

・ミーカート

ハッジやウムラのためにマッカに行く人は、マッカを含む特定の地域に入る前にイフラーム（巡礼着）を着用していなければなりません。この境界のことをミーカートと言います。日本から飛行機でジッダ空港へ行く場合、ジッダに着く前にミーカート上空を通ってしまいますので、その前にイフラームを着ていなければいけません。飛行機の中で着るか、あるいは一般的には例えば飛行機がバンコクからジッダに飛ぶような場合、バンコクでイフラーム着用を済ませてから飛行機に乗ります。

G　イフラーム

男性の場合イフラーム（巡礼着）は縫い目のない二枚の白い布です。一枚を下半身に巻き、もう一枚で上半身を覆います。眼鏡や時計、貴重品入れなどは許されますが、下着などの縫い目のある衣服、帽子など頭を覆うもの、靴など足の甲の骨をおおう履物は着用してはいけません。ただし日除けのために傘をさすことは許されます。女性の場合は特別な巡礼着を着る必要はなく、イスラームの規則にかなった簡素な服装で顔と手首から先を除く全身を覆います。

イフラームとは単なる服装ではなく、巡礼のために特別に身を慎む状態に入ることを意味します。そこで巡礼着を身に着けるときには、まず入浴し、身体に香水などをつけ、巡礼着を着用してから２ラカーのサラートを捧げ、それからイフラームの状態に入るというニーヤ（意志表明）をします。

・イフラームのニーヤ（意志表明）

例えばタマットゥの場合、イフラームのニーヤは次の通りです。

「ラッバイカ　ウムラタン　ムタマッタアン　ビハー　イラルハッジ」

ひとたびイフラームの状態に入ると、ハッジかウムラの行事を終えるまで普段着を着ることはできません。また、イフラームの状態のときには、以下の事

柄が禁じられます。

1．通常ムスリムに禁じられていること全て

2．けんか、口論、他人を傷つけること

3．夫婦生活・妻に性的な意味で触れたりキスをしたりすること・それをほのめかすような話、しぐさなど全て

4．草木を含む一切の殺傷・蚊も殺さず、草一本も抜かないこと

5．自分の爪、体毛（髪の毛・ひげなど全て）を故意に切ったり剃ったり引き抜いたりすること（しかし入浴中に自然に抜ける毛は構いません。）

6．あらゆる香料 （香水、香料入り石鹸、香料入りシャンプー）の使用（ただし香辛料入りの食物は構いません。洗濯や入浴は無香料石鹸、あるいは石けんを使わずに行ないます。）

7．男性が縫い目のある服を着たり、頭を覆うこと

H　タルビヤ

イフラームのニーヤをすると、ただちにタルビヤと呼ばれる次の言葉を唱えます。

「ラッバイカッラーフンマ　ラッバイク　ラッバイカ　ラーシャリーカラカ　ラッバイク　インナルハムダ　ワン二ヤマタ　ラカワルムルク　ラーシャリーカラク」

意味：(アッラーよ！私はここにおります。あなたの御前におります。あなたには同位者はおりません。あらゆる賞賛はあなたのためにあり、あらゆる恵みはあなたから来ます。力はあなたにのみ属します。あなたに同位者はありません）

このタルビヤはウムラのタワーフを始める直前、またハッジの最初の石投げの直前まで、男性は大きな声で、女性は小さな声で唱え続けます。

I　ウムラ

マッカに着いたらまず宿をとり荷物を置きます。それからカアバのあるマスジドゥ・ル・ハラームに行きます。カアバ（黒い建物）の向かって正面左手に黄金の扉がありますが、さらにその左側の角に黒い石（ハジャル・アスワド）があります。これがタワーフ（カアバの周回）の起点です。そこでタワーフを行ないますというニーヤをアッラーに対してします。黒石の正面には位置を表す線が色の異なる石で引いてありますから、その上に立ち、黒石にキスするか、手を触れるか、あるいは離れた所から手をかざしてから「ビスミッラーヒ・アッラーフアクバル・ワリッラーヒルハムド」と唱えます。

それから反時計回りに7回、カアバの周りを回ります。男性は最初の3周は右肩に掛けていたイフラームの布を右脇に通して巻き、右肩をさらけ出した状態で力強く早足で回ります。3周が終われば服を元に戻し、歩くペースで回ります。タワーフの間はアッラーを讃え、さまざまな言葉で祈ります。どんな特定の祈りも決まっていません。クルアーンやズィクル、あるいは個人の祈りなど何でも構いません。一周ごとに黒石に手をかざし、同じ言葉を唱えます。7周終えたら、最後に起点に戻って同じように手をかざし、同じ言葉を唱えてタワーフを終了します。

それからできればカアバの扉の前にあるマカーム・イブラーヒームのそばで、もしできなければマスジド内のどこででも、2ラカーのナフルのサラートを捧げ、ザムザムの水を飲んで一休みします。

それからサファーの丘に登ります。サイーの意志をし、丘の上で祈ってから今度はマルワの丘へ行きます。途中、廊下の緑色ランプが点いている区間では、男性は小走りに走ります。マルワの丘で祈った後、再びサファーの丘に行き、このようにして7度、つまり合計3往復半サファーとマルワの丘を行き来して最後はマルワの丘で終了します。この行事をサイーといいます。

ウムラ自体はこれで終了です。続けてハッジ・キラーンを行なうのではない場合、頭を剃るか頭髪の一部を切ってイフラームを脱ぎます。

J　ハッジ

ズル・ヒッジャ月8日

ハッジのためにマッカに集まったムスリムたちは朝、一斉に数キロ離れたミナーへ向かいます。そこにはテントが用意されてあり、そこに1日滞在します。ズフル、アスル、マグリブ、イシャー、ファジュルの5回のサラートを時間通りに行ないます。そこでズィクルやドゥアー、祈りやクルアーン読唱などに時間を費やし、明日に備えます。

ズル・ヒッジャ月9日

翌朝、ファジュルのサラートを済ませ、日の出の後、再び巡礼者の群れはミナーよりさらに数キロ先のアラファートへと向かいます。これは百万人以上の巡礼者を収容できる巨大な荒野です。ここで巡礼者たちは日が暮れるまでアッラーに祈りを捧げます。このアラファートに一時とどまること（ウクーフ）はハッジの最も重要な行事であり、巡礼者は谷の領域内に必ず足を踏み入れるように注意しなければなりません。アラファートの谷の境界を示す塔がいくつか立っています。巡礼者はアラファートでズフルとアスルのサラートを捧げます。

日暮れとともに、アラファートに集まっていた巡礼者たちはマグリブ（日没後）のサラートを行なわず、そのまま一斉にミナーの方面へ移動し始めます。そしてミナーの少し手前のムズダリファという所で野宿します。巡礼者はそこでマグリブとイシャーのサラートを行ないます。そこでいくつか小石を集めます。

ズル・ヒッジャ月 10 日

翌朝、ムズダリファにてファジュルのサラートが終わった後、ミナーに戻った巡礼者たちは、マッカとミナーの間にある三つの石塔（ジャムラ）の第 3 番目（最大でマッカ寄りの）に小石を投げる儀式を行ないます。小石は右手の親指と人差し指でつまめる大きさで、7 個を 1 個づつ投げます。投げるとき「ビスミッラーヒ・アッラーフアクバル」と唱え、預言者イブラーヒーム（彼の上に祝福と平安あれ）の試練を思い、自分自身の欲望や悪魔の誘惑と戦う決心をします。

石投げを終え、再びミナーに戻ってから動物を犠牲に捧げます。これは 1 人につき羊か山羊 1 頭、あるいは 7 人で牛かラクダ 1 頭です。

犠牲が終わると剃髪するか髪の毛の一部を切ってようやくイフラームを脱ぐことができます。しかしこの後、マッカに戻ってもう一度タワーフ・ル・イファーダを済ませるまでは、夫婦生活は許されません。

上記の行事の後、ズル・ヒッジャ 10 日あるいはズル・ヒッジャ 11 日にタワーフ・ル・イファーダを行なうこともできます。また、ズル・ヒッジャ 10 日は全世界でイードゥ・ル・アドゥハーの大祭の日にあたります。

その後巡礼者は少なくともズル・ヒッジャ 11 日・12 日まではミナーにとどまり、その間毎日 3 つの石塔に向かって小さい石塔から順番に石投げの儀式を行ないます。10 日の石投げの行事では日の出から正午までの間に最も大きな石塔に向かってのみ石を投げました。けれども 11 日、12 日には、正午から日没までの間に三つの石塔すべてに石を投げます。ただし女性はこれを夜に行なうことが許されています。

ズル・ヒッジャ 13 日までミナーにとどまることもできます。しかし、もしズル・ヒッジャ 12 日にミナーを去るつもりならば、必ず日没前に去らなければいけません。

こうしてめでたくハッジの全行事を終えた巡礼者たちは、自分の好きなだけマッカにとどまり、マスジドゥ・ル・ハラームでサラートをしたり、マディーナへ行って預言者のマスジドを訪れたりできますが、マッカを去る前には必ず最後に「別れのタワーフ（タワーフ・ル・ワダー)」をしなければなりません。これをもってハッジの行事は完全に終了します。

K　マディーナの訪問

ハッジの義務ではありませんが、ほとんどの巡礼者はハッジの前か後にマディーナ市を訪れます。マディーナは預言者マスジドや歴史的な場所が多数あり、預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）が埋葬されている地です。またイスラームが地歩を固め発展していくきっかけになった場所でもあります。この地にある預言者マスジドを訪れることは強く勧められています。

マディーナ市へはマッカからバスで8時間位です。途中多くダルード（預言者への祝福を求める祈り）を唱え続けます。

マディーナ市へ着いて宿に荷物を置いたら、なにはともあれ預言者マスジドに行きます。一般のマスジドに必要なあらゆる尊敬のルールが預言者マスジドにも適用されます。マスジドの中で2ラカーのサラートを捧げた後、キブラに向かって左手、建物の外から見ると丁度緑色のドームの真下にある預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）の墓を訪れます。墓は真鍮のグリルによって保護されています。その正面に面と向かってから、平安あれの挨拶を送ります。その時過度に激して泣き出したり、他の訪問者の妨げとなるくらい延々と祈りをあげるのは良いマナーではありません。

預言者（彼の上に祝福と平安あれ）へのあいさつの後、彼の傍らに埋葬されているアブー・バクルとウマルにも平安あれとあいさつを送ります。マディーナには預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）の墓以外にも、サハーバの多くが眠る墓地ジャンナトル・バキ、ウフドの戦場跡、イスラーム最初のマ

スジドであるクーバ・マスジドなどの名所があります。これらを訪れるのも良いでしょう。しかしマディーナにいる間はできる限り預言者マスジドを訪れ、その中で祈り、アッラーに許しを求めるようにします。

さて、ハッジの行事が全て終わり、自分の国へ帰る時がやって来ました。ハッジを行った者は以前の罪を全て許され、生まれたばかりの赤ん坊のように罪のない状態になります。そこで巡礼者は自分の人生を再出発し、生涯罪から遠ざかる決意で帰途につきます。

الإسلام

(عقيدة وعبادة)

٢٢٠١٠١٢ ياباني

المكتب التعاوني للدعوة والإرشاد وتوعية الجاليات بالسلي
ص.ب. ١٤١٩ الرياض ١١٤٣١ هاتف ٢٤١٠٦١٥ ناسوخ ٢٣٢ - ٢٤١٤٤٨٨
البريد الالكتروني : sulay5@hotmail.com